

波照間島の神行事について

仲 底 善 章

(沖縄県立博物館)

Religious Ritual in Hateruma Island

yoshiaki NAKASOKO

(Okinawa Prefectural Museum)

1 はじめに

今はサトウキビを中心とする畑作中心の農業の島である波照間島。このような農業の形態は1961年～1963年にかけて中型の製糖工場の立地により続けられた農業の形態である。それ以前の波照間島では麦や粟・稲作を中心とする半農半魚の自給自足に近い農業形態であった。山の存在しないこの島において、水の確保は命賭けそのものであった。

かといって頼れる水は地下水のみで、それを農地に引き込むことはほとんど不可能なことである。後はひたすら雨が降ってくれることを祈るのみである。

このようなことで、アミニゲー（雨ごい）の神行事は、島の神司（女性司祭者）たちにとっては大切な儀式であり、そのことは島の役員であるオーシャピトゥ（島＝公民館役員）にとっても大切な島（村落）行事であった。

この中で紹介するフサマラーの行事についても、1950年以降は殆ど実施されることなく、わずかの古老のみが体験し、多くの古老たちもそれを幼い時に見聞きたということ、現在それについて語れる人も年々減少している。

本稿では、島で行われている神行事の目的、内容等に大石御嶽の神歌（バン）を中心に紹介し、島の水マチ場所（拝所）、それを結ぶ神道について調査したことを報告します。

なお未調査、疑問点には？を付記し、今後の調査で明らかにしていく予定です。

2 島の主な神行事について

以下、波照間島における神行事の一覧を先に述べ、その後、各行事についてその詳細について述べたいと思います。尚、42 のプーリンについては波照間島総合調査報告書で報告済みです。

波照間島の神行事一覧（日付は平成8年度下期～平成9年度上期）

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1 シンの入り (10/28) | 2 シンヌ舟漕ぎ (10/30) |
| 3 カンヌ ムヌ ソージ (11/9) | 4 トウシヌ パツメヌ ヌブリ (11/10) |

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 5 ジュンガツ ミヨウクチエー (12/1) | 6 ジュンガツ カンパナ (12/1) |
| 7 アラタビヌ ツクリニゲー (12/7) | 8 ジュンガツ シマフサラー (12/12) |
| 9 アミニゲーヌ アサニゲー (12/17) | 10 アミネゲーヌ スニゲー () |
| 11 ウシヌバンヌ バンユレー (12/18) | 12 ナータビーヌ ツクリニゲー (12/19) |
| 13 アミニゲーヌ アサニゲー (12/27) | 14 アミネゲーヌ スニゲー (12/30) |
| 15 三日クムリ (1/19) | 16 ミニン バンユレー (1/27) |
| 17 プータビヌ ツクリニゲー (2/5) | 18 トウシイヌ ヌブリ (2/10) |
| 19 カンヌ ムヌソージー (3/9) | 20 ヌブリ (3/10) |
| 21 アラブリ (3/11) | 22 五日クムリ (3/20) |
| 23 二月ミヨウクチエー (3/31) | 24 2月 カンパナ (4/1) |
| 25 2月 シマフサラ (4/11) | 26 2月 トウマニゲー (4/17) |
| 27 ブサチマチー (4/18) | 28 アミネゲー アサニゲー (4/28) |
| 29 トリヌ バンユレー (5/7) | 30 トピイムヌ ニゲー (5/9) |
| 31 ヌブリ (5/9) | 32 ナーブリー (5/10) |
| 33 カナムヌ ソージー (5/19) | 34 スクマン マッシ (5/19) |
| 35 7日 クムリ (5/19) | 36 シピランカン (5/31) |
| 37 ヌブリ (6/7) | 38 プリブチ (6/9) |
| 39 シマフサラー (6/10) | 40 5月 ミヨウクチエー (6/15) |
| 41 5月 カンパナ (6/16) | 42 プーリン (6/17) |
| 43 アサヨイ (6/18) | 44 アミジュワー (6/18) |
| 45 ユーニゲー (6/20) | 46 5月 トマニゲー (6/26) |

(1) シン(節祭り) 戊戌(つちのえ いぬ)の4日間

戊戌の4日間、その間、人々は田畑の仕事を休む。農作業の始まりにあたり、身辺を清め払い、その年の豊穰を祈願する。その間、島人は絶対に味を使用したり食べたりしてはいけない。そのかわりにピール(ニンニク)、マース(塩)を使用する。シン入りになると各家々では味カメのふたを縄でゆわいつけるなどの厳しい習わしであった。

初日、各家では朝早く、各ムラの御嶽の井戸から汲んできた水(バガミズ)で、一番座のブザスケ(床の間)の諸道具を洗い、ススキを生ける。

各御嶽の司たちは身を浄め、農耕の年始めに、その年の豊作を祈願する。(どこで、どのように?)

二日目、各家でも初日と同じように各ムラの御嶽の井戸の水を汲み、家の清掃を行い、

香炉の砂なども新しく取り替える。香炉の砂も所定の場所（?、家ごと?、ムラごと?）の砂を使う。

その後、ピナカン（火の神）・ウヤピイトゥ（仏壇）・ブザスケ（床の間）の前にはミザミヌイー＝イバツ＝デーヌイー（おにぎり）を小皿2つに3個ずつ盛る。自分の香炉を持っている人がいればその分までミザミヌイーを同じように添える。

(2) シンヌ船コギ 庚子（かのえ ね）

シンの3日目の行事でユーニガイ（世願い）としてフニクギ（船漕ぎ）の行事が行われる。船漕ぎの儀式は、各村の神司が自分の所属する御嶽で「シンヌフニクギ」があることを報告することから始まる。その後、司やヤマニンジュは各村の受け持ちの浜に移動する。舟漕ぎはジラバ（内容?未調査）を歌いながら行われる。

シサバルオガン（白郎原御嶽）のヤマニンジュ（ヤマの人々＝氏子）である北ムラと南ムラは共同で、美底・新本御嶽のそれぞれの分、ブドマリパマで九往復船漕ぎを行う。その内容は、1回目がオモトの神、2回目がクン（古見）の神、3回目がナカマ（仲間）の神、4回目はボラ（南風見）の神に捧げる形でジラバを歌いながら行われる。その際、舟での旗持ちは、ムーゲ（東迎）家が行う。



神道よりイナサイヒー（家）

以前には、年に3回、それぞれの神が鎮座するオモトのナランガー（?）にはマートイリワー（真徳利御嶽）の仲本家が、ボラ川（南風見）には保多盛家が、古見川＝前良川?にはシサバルオガン（白郎原御嶽）の東田家が、仲間川には加屋本家が水を取りに出かけ、各御嶽に分け与え、各御嶽の神司はそれを供え、雨をもたらせてくれる事を祈願する神事が行われていたとのこと。

アバテワー（阿幸俣御嶽）のヤマニンジュである前ムラと名石ムラも共同で、大石・大底御嶽のそれぞれの分、マイブドマリ＝マドマルパマ（バサバリパマ又はイナサイパマでは?）で九往復船漕ぎを行う。その際の旗持ちは、ウヤマシィ（親盛）家が行う。

舟漕ぎの際に歌われるジラバは各御嶽ともシサバルオガン（白郎原御嶽）と同じ内容が歌われているようである。

マートイリワー（真徳利御嶽）のヤマニンジュである富嘉ムラは阿底御嶽の分、ミシクパマで九往復船漕ぎを行う。その際の旗持ちは、ホタムリ（保田盛）家が行う。

午後からはイナマパマに各ムラのヤマニンジュウ（範囲は?）や司、オシャピトゥ等

が集合しての船漕ぎ競争が行われる（勝敗は特にない？）。三隻の船はそれぞれ午前に歌ったジラバを再度歌いながら沖へ漕ぎだし、帰りは「ヤッサ、ヤッサ」のかけ声で競争しながら帰ってくる。船漕ぎは合計9回行われる。船漕ぎが終わると漕ぎ手の代表は、それぞれ司たちから盃を受け、全員集合しての行事は終わる。

その後、各ムラの船は、最初に船漕ぎをした場所に戻り、無事に舟漕ぎが終了したことを報告（パン？）し、さらの各御嶽での報告で舟漕ぎの行事は終える。（そのくわしい様子は未調査？）

シンの最後の日、各家では二日目と同じく、ミザミヌイ＝イバツ＝デーヌイーを添えて節の一連の行事を終える。

(3) カンヌ ムヌー ソージ＝アガン（甘藷）ヌソージ（害虫駆除）

庚戌（かのえ いぬ）

虫払いに当たる行事で、イナーアスピー（海遊び）とも呼ばれる。1年に3回行われ第1回目と第2回目はアガン（甘藷）ヌソージ（害虫駆除）、第3回目をトゥピムヌソージ（鳥類などの飛ぶ生き物の駆除、粟・麦・稲等の害鳥駆除のこと）が行われる。

この日の朝早くから、願いのできる人＝ニゲールピトゥ（？名）が美底御嶽、新本御嶽、大底御嶽、大石御嶽、阿底御嶽の順にルート＝美底御嶽を出た後、松本家の脇を通り、新本御嶽の東門より入る。その後、新本御嶽を出て、新本家の脇を抜けるようにして、阿利家を通り、田福本家の前を通り、佐事家の脇を通り、ユネンケー（井戸）を通り、勝連家と田福家の間を抜け、ケーシムリ御嶽の脇を通り、大底御嶽・大石御嶽を回り、バシキのケ（井戸）まわる。その後、プニヤマを経て、島本家の東脇を通る＝集落を結ぶ神道にピイトウタームヌパン（内容？）を歌いながらまわるとのこと。

図1. 集落内の神道とその行程を参照

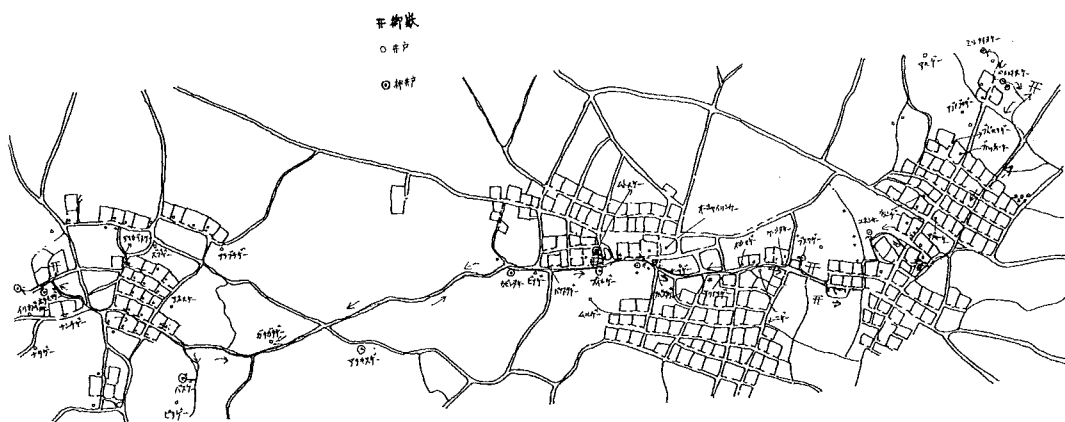


図1. 集落内の神道とその行程

カンヌ ムヌソーヂ ヌ パン＝神歌（大石御嶽）

トウチイ トウチイ

今日ヌ 神ピイルウ 上イピルウ イナアシピ カナムヌソウジヌ

ウゴンヌ アタリ オルタラ カンヌコウムチ ウイヌコウムチ カンパナ

ウイパナ コウムト ウイムト カンヌコウムチ ウイヌコウムチ

カンシナシン シヨオリ ウイシナシン シヨオリ

カンムゲー ウイムゲー ウゴン アガオラバ ビジリヤ ネジメエア

ウチガ フチガ マピキンシヨオリ ウヤピキンシヨオリ

ノビヤマ スビヤマ ウラオリ カリヨシミウナ シダオリ

ウゴンアガオラバ ニシヌ プジマ ヤマジマ タカサシマガ

ヌギシマタボララオリチ バガヌグヌ島 カラ島ヌタメン シマタボリ

村ニンズウ 島ニンズウヌ タメンシマタボリ

トウチイ

コウムチ・・・ヤマヌクマタ 花 米

ミイ クナムト（ペエ33）

パナヌファヌクマタ・・・コウムチ ピトピサ 花 米

各御嶽では、ムラブサー（男性の祭祀補助者）が各家のヤマニンジュー（7才から73才までの住民）から集めた花米や線香徴収した供物を供えて祈願を行う。神司には、各ムラの御嶽から1人ずつの供（カマガー又はパナヌファ？）が付き、阿底御嶽につく頃には6名に人数になる。その間、各御嶽付近から害虫を捉えながら進む。

阿底御嶽での願いが済むと、島の西のミシクパマへ向かう。その途中でも作物の害虫であるバッタやイナゴ等の虫を集めながら進む。ハマにつくと、害虫と供物＝飯や芋などを芭蕉の葉で作って舟に乗せて、ピットウタームヌパン＝「この島は何もない島なので西の方にある豊かな島（台湾？）にいてください。の歌意」を歌って害虫を追い出す。この際に使う芭蕉は「カルツヤマ」から切り出して使用する。

一方村人たちは、農耕を休み、牛・馬・山羊などの家畜を、北・南ムラはブドマリパマ、前・名石ムラはイナサイパマ、富嘉ムラはミシクパマの浜に連れ出し、動物の虫払いを行っていた。戦後、村人の参加によるこの行事はほとんど行われていない。

(4) トシヌ パツマリヌ ヌブリ 庚酉（かのえ とり）

「ヌブリ」は1年に5回行われ、船旅の安全と天地への祈りで、阿底御嶽のみが行う行事である。トシヌパツマリヌヌブリは年の始めに行われる行事である。島のいたるところにある拝所をくまなく回り、天の神、地に神、野の神、原の神など全ての神々に対

して、祈りを捧げる巡礼である。彼らを通る道はカミチイ＝神道と呼ばれ、一般の人々は当日、その道を避けて通る。出会った時は姿を隠し、特に男性は絶対に見てはいけないとされている。

この行事は島で最も神高いとされる保田盛家の阿底御嶽の司とパナヌファ＝ミザスケーヌパンダ（女性補助的司祭者）の2人（以前は着物を捲り上げ、左袖と着物の裾をアダンの紐でしっかり結び、四角の布で髪を覆っていたとのこと）が朝早く、阿底御嶽から出発し、保田盛家、西島本家を訪れ、ヌブリのある事をピナカン＝火の神とブザスケ＝床の間に報告、祈願する。保田盛家では、ピナカンのペー＝「火の神の灰」を採取する。

その際、両家からヌブリのケー（ヌブリのお粥）が供物して提供される。

その後、阿底御嶽に戻り、ホタモリゲーの水を持参して、今度は島の西海岸にあるミシュクゲーを訪れ、持参してきた水でヌブリの祈願を行なって阿底御嶽に引き返す。

昼食に、ブニ本家＝大嶺家から届いたヌブリのケーを頂いて、ピナカンのペーとホタモリゲーの水をカナバリ（瓢箪）2つを持参し、各村の御嶽へ向かって、出発する。カナバリの1つは各村のワー（御嶽）の水マチのため、もう1つはスミス村で使用するものである。司とパナヌファが持つグサン＝杖は阿底御嶽内から切り取って使用する。



ミシュクゲーでの祈願

阿底御嶽を出た一行は保田盛家の「火の神の灰」を部落内の4ヶ所の「フナミヌシキドゥリ」の石の下に埋め、平伏して地に口をつける様なしぐさとパンを歌いながら祈願をする。

フナミの場所と祈願の方向は、① ホタモリゲーの手前で南東に向け（真徳利御嶽方向？）② 島本家の後ろで北東向け（阿底御嶽向け）③ ナンチ家＝島本家の屋敷内の東隅で南東に向け（真徳利御嶽方向？）④ ブニ＝大嶺本家の北西の隅で東に向かって（各村の御嶽方向？）である。

富嘉村を出たヌブリの一行は、バスケのケー（井戸）に向かい、その井戸を3回まわり、持参した水を奉り、祈願を行う。それが終わると大石御嶽に向かう。その途中、ブリゲ（井戸）で水を頂き、カンチャマ（＝カンチ・アザマナグの住居の伝承）で持参してきた水を奉り、祈願を行う。大石御嶽にはゴゴンザイ家（東金嶺）の脇を通り、裏門

から入る。大石御嶽に着くと大石御嶽のトウニムトである桃盛家、西波照間家、富底家から届けられたケー（お粥）と持参した水を御嶽のマソミに供えて祈願を行う。各村の御嶽での祈願にはオーロロの（内容？）歌を捧げる。持参した阿底御嶽の水は各御嶽のバツに3回にわたって供えられる。各村のトウニムトから届けられたケーは参加人数分供出され、桑の葉などで包まれて出されていた。その後、ナータヤマ、島本家、ケーシムリ御嶽を経て、大底御嶽に入る。

大底御嶽ではウヤマシ（親盛）家からケー（お粥）が届けられ、それを供え・いただき、大底御嶽を後にする。オヤケアカハチの住居跡の南の道を経由して、ユネンヤマ・ユネンケーに到着する。ユネンケーでもその周囲を3回まわって祈願を行う。

その後、田福本家、阿利家の前を経由して、新本御嶽に入る。ここでもムーゲ（東迎）家から届けられたケーを供え・いただき、美底御嶽向け出発する。その後、美底御嶽に入り、ブハティ（東田）家から届けられたケーを供え、いただき、スムスゲーに向かう。

スムスゲーでは、3ヶ所でミズマチを行なった後、スムスゲーの周囲を3回まわり、持参してきた水を供え祈願を行う。

その後、阿底御嶽専用の階段を使って、スムスケーの水を持参した2つのカナバリ＝瓢箪の水入れに汲み取り、マシユクムラ跡に向かう。マシユクムラではシシイシとマツキナでミズマチを行う。マシユクムラでの祈願が済むとブドマリ・パサバリなどの島の北岸の神道（カネグ道＝ユベ道）を通り、イナマ・イナサイを経由してホタモリゲーと阿底御嶽に到着する。ホタモリゲーと阿底御嶽のマソミにスムスゲーから持参してきた水を供えて、すべての祈願を終える。別紙 図2. ヌブリの行程（阿底御嶽）を参照

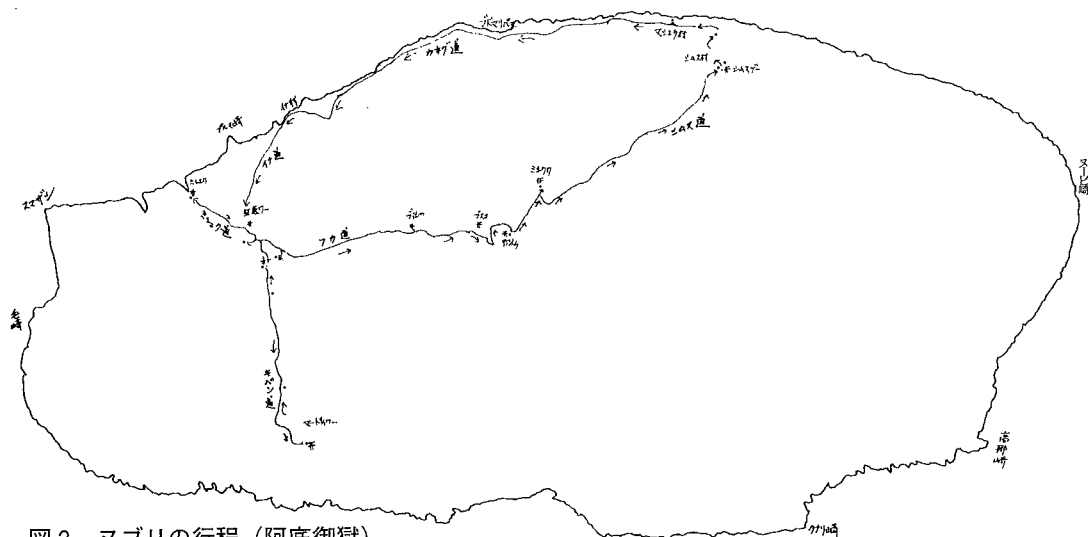


図2. ヌブリの行程（阿底御嶽）

(5) ジュンガツ (10月) ミヨウクチエー 壬申 (みずのえ さる) 1回目

この行事は島内の神聖なピテヌワー (野原の御嶽) や神様のお通りになる道=カミチ (神道) やその他の聖なる所々の農道を (?) 清掃する行事で、年に3回行われている。

ミヨウクチエーが近づくと各ムラのムラブサーは、15才から50才までのヤマニンジ ュウから花米を集め、それでミシ (神酒) を作り、ミヨウクチエー当日、ピティヌワー (真徳利御嶽、阿幸俣御嶽、白郎原御嶽) に運ばれる。

司や島の老人たちが主にこの仕事に携わるが、台風など仕事量が多いときは島のフダニン (生産人) も加わる。これらの清掃が終わると、司やパナヌフアーが「島人の健康を賜り、畑仕事に励ましてくださり、豊作を恵んでください。豊作をお願いします。」と祈願をする。

ジュンガツ (10月) ミヨウクチエーのパン=神歌 (大石御嶽)

トウチイ トウトウ

今日ヌカンピル ウイピイル

10月ミヨウクチエー ウゴンヌ アタリオルタラ

ヤマニンズウ スウニンズウ ナリオルソウ ウシトウジ ユナリオルソウ

神ぬ道 上ヌ道 ガツケバライ シヨオリ プヌバライ シヨオリ

カイシ ヤナシマタボリ 上シマ ナシマ タボリ

リッパニ メエガキシヨオリ カンヌ所 ナミナミ オルンウヤン

カンシケン シヨオリ 上シケンシヨリチ

ウゴン アガオラバ イイウゴン アガシマタボリ

トウチイ

村ブサー パナノオガンに線香なし (ペアもナシ)

塩

塩 塩

ピイル3玉

ミキ (皿) ミキ (皿)

キュウス キュウス

供物は、ミシ、塩、ピル (ニンニク) を使用する。祈願が終わると作業に携わって方全員、ミシを飲みながら休憩を取り、その日の作業を終える。

ウチイヌワも同時に清掃を行うマソミについては女性が清掃するのが原則である。どうしても男手が必要なときはカマガーと呼ばれる方がその任にあたる。

別紙 図4. ミヨウクチエーの分担 (106ページ) を参照

(6) ジュンガツ (10月) カンパナ 壬酉 (みずのえ とり)

カンパナは、神への納入米としてグサグミー (5 勺米) が各村のムラブサーたちによってヤマニンジュから集められ、各村の司やオシャピトゥーの元に捧給として届けられる。オーシャピトゥーは富嘉村の阿底御嶽をかわきりに各村の司宅を訪れ、各司に今年の豊作祈願の依頼を行う。

各御嶽の司の家では、届けられた5 勺米 (グサグミー) と神酒・塩を供物として供え、司によって、ブザスケーの神に祈願をし、その後、参加者全員によって祈願が行われる。

ジュンガツ (10月) カンパナのパン＝神歌 (大石御嶽)

トウチイ トウトウ

今日ヌ 神ピル 上ピルヌ アタリオルタラ

10月マシイ 神パナ 上パナヌ ウゴンヌ アタリオリチイ

7ウガラ 7ミバキヌ グシヨミン カンシケシン シヨオリ

上シケシ シヨオリチ ドウズサ カリズサ ウゴンアガオラバ

神ヌシカラン 上ヌシカラン ムチアシマ タボリ

神シケン シヨオリ 上シケン シヨオリ

アガマ シウラマ 島ニンズウ 村ニンズウ アラジ カラジ

ケーラケンコウ アラシマタボリチ 島グミ シヨオルウヤン

ヤシダミ シヨオル ウヤン スウヌタメン ニーヌタメン シマタボリ

トウチイ

(7) アラタビーヌ ツクリニゲー 戌寅 (つちのえ とら)

ツクリニゲーは、作物の豊作願いのことである。年3 回行われ、最初をアラタビヌツクリニゲーと呼び、年が新たになって初めての大きな神行事であり、農作業の始まりであるための大切な神行事である。各部落の司とパナヌフアたちが各村のトゥニムト家のブザシキー (神前) での祈願から始まる。

アラタビヌツクリニゲーぬパン＝神歌 (大石御嶽)

トウチイ トウチイ

今日ヌ 神ピイル 上ピイルヌ アタリ アルタラ

アラタビヌ ウゴンヌ アタリオリチ 宮良殿地 喜瀬殿地 オル ウヤン

屋敷ウチ ミショウラウチ ハコウラウツ オル ウヤン

ブウミナガ ピシイミナガ オル ウヤン カントリチ ウイトリチ オル ウヤン

ムトブイ ニイブイ キタヌウチ ニヌウチ オル ウヤン

ザアユラヘエ オル ウヤン ピサユラヘエ オル ウヤン

ブザスケー デエカネ オル ウヤン ブウヤドチ ケーヤドチ オル ウヤン
 ブウゾウ ケゾウ オル ウヤン アサカレシヨル ウヤン
 ユウカレ シヨオル ウヤン 千年 万年 ユウムチ オル ウヤン
 ゾウカニゾウ オル ウヤン パナスクバラ オル ウヤン
 大石 名石 オル ウヤン ボウアタラ アガンタラ オル ウヤン
 ブタル ウヤン トウタル ウヤン ムトブスク ナガブスク オル ウヤン
 ケーシムリ メエパナジー オル ウヤン タチオシヨオル ウヤン
 ピケオシヨオルウヤン スリヌウヤン ユリヌウヤン ウリヌウヤン
 ノリヌウヤン ブウゾウ ケゾウ オル ウヤン 神ヌ所 ナミナミ オル ウヤン
 ブウメア ピシイメア オル ウヤン
 マヌバゾウ ブウゾウ ケゾウ オル ウヤン
 アリピンガシ イチハケ タナハケオル ウヤン
 ブウトウ フウトウ ブイノ ケイノ アシナガ スブシナガー
 白ハマ ケバマ ヌビヤマ スビヤマ オル ウヤン ドウミン シヨオル ウヤン
 ピキミン ミオル ウヤン ブサシパナ ミキンパナ オル ウヤン
 サニケ ムトケ 天ヌヌシ 水ヌヌシ オル ウヤン
 ブナバリ ペナバリ ヌンタリオル ウヤン ピンタリオル ウヤン
 天ヌヌシ 水ヌヌシ オル ウヤン バシヨチ イシオル ウヤン
 イリミョウダギ キヨミョウダギオル ウヤン
 クノラ ミヨシク ミイヤマ ミイタケオルウヤン
 神ヌ所 ナミナミ オル ウヤン 神やヒトチ ウイヤピトチ ヤリオリ
 今日ヌ 神ピール 上ピール アラタビヌ ウゴンヌ アタリオリチ カンヌコウチ
 上ヌコウチ ?
 神パナグミ ウイパナグミ 神ミシャグ ウイミシャグ 九ナムリヌスネブン
 9ナ (ハコナと読む) ムリヌ 神クパン ウイクパン
 コビヌ カンヌコウムチ 上イヌコウムチ
 神シナシン シヨオリ ウイシナシン シヨオリチ ウガン アガオラバ
 スクルユウ ウチクルユウ ブシパカ トウパカ パカクチェーシン シヨオリ
 マシイクチェーシン シヨオリ
 イビグサ サチグサ シヨオラバ シタニン ウラオリ ケニンウラオリ
 シイ水 雨ミズ イスカ (五日) マリ 10日マリ
 ユルヤシネン ピスヤンネン タボララオリ ブウムトナガガラ ナガムトナガガラ

ウリジン ユガフ ナリオル チヤラ イバヤダギ ユシキヤダギ ムトウヤン
サカヤンタボリ イルケシヤ パーケシヤ フキケシヤ アラシマタボリ
ノーリユウ メーリユウ シマヌメン フウヌメン アラシマタボリ
ブタシ マダシイン タボララオリ トリオクリン シヨオリ
カリウクリン シヨオリ 神ヌ前 上ヌ前 ウゴン アガオリヌ アマリヤ
島ニンズウ 村ニンズウ アラカラジ カラジ アガマ シユラマ
ケーラ バタンチン パラ ンチシマタボリ
トウチイ

その間、各トウニムトではカミダナー（神田）に粟を播く。その後、各村の神司とパナヌファたちは各御嶽のピテヌワ（シサバルオガン＝白郎原御嶽、アバテワー＝阿幸俣御嶽、マートイリワー＝真徳利御嶽）へ行き、各村の御嶽に神を迎え入れる。その間、ムラブサーたちはクパン（神酒）とマンズ（花米）を準備し、神司とパナヌファたちの帰りを待って準備した供物を各御嶽のマソミの前に供え、五穀豊穡の祈願を行う。その時ムラブサーたちも各御嶽の敷地内にて一緒に祈願をする。

この日はパナヌファにとっては1年間の初仕事であり互いに懇談し合う。

ツクリニゲの儀式は、それぞれ各家でも行われる。

(8) ジュンガツ（10月） シマフサラー 癸羊（みずのと ひつじ）

シマフサラーは、浄め・厄払いの行事であり、悪魔払いの行事であり、年3回行われる。各村のムラブサーは各家から線香と花米を集め、これを司は御嶽に供え、疫病が入ってこないように祈願をした。以前は、部落の四方の外れや入り口をまたぐようにして、締め縄で張り巡らし、牛や山羊の皮などをぶら下げ、部落に悪い病気や悪霊が入らぬように祈願した。

10月 シマフサラーのパン＝神歌（大石御嶽）

トウチイ トウチイ

今日ヌ 神ピル 上ピルヌ アタリオルタラ

シマヌフチアラ ウゴンヌアタリオリ ヤーカチ キニカチガラ スキバナシヨオリ

ムラヘ オリ コウムト ウイムト カンヌコウムチ 上ヌコウムチ

神シナシン シヨオリ 上シナシン シヨオリ

ウゴンアガオラボ 島ヌフチアラバ 村ヌフチアラヌ ウゴン アギシマタボリ

ヌウシャル コト バナシキン アリオラバン ナハ トウサガ スギシマタボリチ

島ニンズウ 村ニンズウ アガマ シコラマ ケーラ ドウズサン カリズサン

アラシマタボリチ 島ヌタメン 村ヌタメン シマタボリ

トウチイ

(9) アミニゲーヌ アサニゲー 戊子(つちのえ ね) 1回目

雨願いの儀式である。この行事は3日間続けられ、年に3回行われる。その日に備えて、各ムラブサーは、各家からコー(線香)とパナ(花米)を集め、アミニゲーの当日、神司とパナヌフアたちが早朝、各御嶽のマソミで雨願い、作物の生育を祈願する。

その後、それぞれの御嶽のパナヌフアたちは各嶽のケーヌミズをカナバリ=瓢箪に汲み入れ、各御嶽内の所定の水マチ場所(拝所)に水をまつる。図3.p97を参照

雨ニゲー朝ニゲーのパン=神歌(大石御嶽)

トウチイ トウトウ

今日ヌ 神ピイル ウイピイルヌ アタリオルタラ 神ミズ 上ヌミジ オシオリ

神パナ 上パナ ヤーヌクマタ パナヌファヌクマター コウムト ウイムト

オシイオリ カンシナシン シヨオリチ ウイシナシン シヨオリチ

ウゴン アガオラバ ウゴンヌムチア シイ水 雨マ水

トキマチン ブリマチン アリオラングトニ ユルヤシネ ピスヤスネン

5日マリ 10日マリ タボララオリチイ スクルユウ ウチクルユウヌ

タメンシマタボリ スクルユウ ウチクルユヤマナ ブウヌン ピスヌンヤリオリ

スクルハケ スクルナガル ヤリオルムヌア

シイ水 アマ水ヤ 5日マリ 10日マリ スイスイニタボララオリ

ウリジン ユガフ ユガフナリオルムラ ブウムトナガガラ ナガムトナガガラ

ムトウヤン サカヤシタボリ イルケシャー パアーケシャー フキケシャー

アラシマタボリ ブダシン マダシン タボララオリ トリウクリン シヨオ

カリウクリン シガニ マンガニナシオーリイ ケーダチシヨオリ

神ヌ前 上ヌ前 ウゴンアガオラバ イイウゴンアギシマタボリチ

アガオリヌ アマリヤ 島ニンズウ 村ニンズウ アラジ カラジヌ

タメンシマタボリ

トオチイ

※ アミニゲーヌ スニゲー (雨願いの 総願い)

この儀式は雨の少ない年に、阿底神司か部落会長からの要請があれば行う儀式で、ヤマニンジュー総出で行い、アミニゲー終了3日後の2日間で次のように行う。

まず、富嘉村のパナヌフアの2人が、カナバリ=瓢箪製の水入れに阿底御嶽のホタモリゲーの水を汲み入れ、神道(島本家の東脇を通り、ブニヤマを右折し、ピタ村の北側の拝所を通り、ピタ村のトウニムトウを訪れ、その後真徳利御嶽に行くまでに2つの拝所)

で水祭りをを行い、最後に真徳利御嶽（どこで？）で水祭りを行う。

その後、富嘉村のヤマニンジュー（男）数名も阿底井戸の水をカナバリ＝瓢箪に汲み入れ、神道〔阿底御嶽を出て、島本家の脇をブニヤマを通り、バスケのケ（井戸）をパンを歌いながら9回まわる。その後、大石御嶽、大底御嶽を回り、ケーシムリの脇を通り、勝連家と田福家の間を通して、ネンケー（井戸）で周囲を9回まわる。その後佐事家の脇を通り、田福本家の前を通り、阿利家を通り新本家の脇を抜けるようにして、新本御嶽に入る。その後、新本御嶽の東門より出て、松本家の脇を通り、美底御嶽の正面より入る〕を通り、大石、大底、新本、美底の各御嶽で水祭りを行なう。

その後、さらにスムスゲーまで足を延ばし、水祭りを行うそして、帰りにはスムスゲーの水を持ち帰り、阿底御嶽に祭る。

同じように各御嶽のパナヌファたちも各御嶽のケーの水を瓢箪に汲み取りそれぞれの御嶽地域内の所定の場所で水祭りを行う。図3. P97を参照してください。

また、総願いの第1夜、阿底御嶽から男2人がフサマラゲーの水を、4の御嶽とスムスゲーに供えて歩く。その後各御嶽のヤマニンジュー1人が御嶽の水を持ち寄り、阿底御嶽へと向かう。御嶽と井戸に水を供える。その後、阿底ワーの水を各村の拝所と井戸に供える為に持ち帰る。

スウニゲーのパン＝神歌（大石御嶽）

トウチイ トウトウ

今日ヌ 神ピイル 上ピイルヌ アタリオルタラ

雨ニゲーヌ スーニゲヌ ウゴンヌアタリオリ 3日間 アサニゲー シヨオリ

今日ガラ スウニゲーヌ ウゴンヌ アタリオリチ 神バナ 上バナ 神ミシャグ

上ミシャグ 神シナシン シヨオリ 上イシナシン シヨオリ ウゴンアガオラバ

シイ水 雨ミジ 5日マリ 10日マリ 時マチ ブルマチ アリオラングト

スイスイニ タボララオリチイ スクルユウ ウチクルユウヌ タメンシマタボリチ

スクルユウ ウチクルユウヌ タメンシマタボリチ ノリユウ メリユウ

アラシマタボリ トリオクリン カリウクリン シマタボリチ

ブタシン マダシン タボララオリ

神ヌ前 上ヌ前 ウゴンアガオラバ イイウゴンアギシマ タボリ

トウチイ

雨ニゲー スウニゲーの1日目の夜は、夜マチ

スーニゲー1日前の日は、ヤマニンジューも 朝も夜も水マチある。

パナヌファは、サニゲまで水マチある

午後から名石、前、南、北の各村のヤマニンジュウの代表の1名はそれぞれのワー（御嶽）のケー（井戸）の水を汲み取り美底御嶽から順にさそいあって {どのようなルート？＝美底御嶽を出た後、松本家の脇を通り、新本御嶽の東門より入る。その後、新本御嶽を出て、新本家の脇を抜けるようにして、阿利家を通り、田福本家の前を通り、佐事の脇を通り、ユネンケー（井戸）を通り、勝連家と田福家の間を通り、阿底御嶽、ケーシムリの脇を通り、大底御嶽・大石御嶽を回り、バイケのケ（井戸）でをパンを歌いながら9回まわる。その後、ブニヤマを通り、島本家の東脇を通過して} 阿底御嶽に至り、水を祭る。

帰りには阿底御嶽の井戸水を持ち帰り {？どのようなルート＝阿底御嶽を出て、島本家の脇をブニヤマを通り、バスケのケ（井戸）をパンを歌いながら9回まわる。その後、大石御嶽、大底御嶽を回り、ケーシムリの脇を通り、勝連家と田福家の間を通りユネンケー（井戸）を9回まわり、佐事家の脇を通り、田福本家の前を通り、阿利家を通り新本家の脇を抜けるようにして、新本御嶽に入る。その後、新本御嶽の東門より出て、松本家の脇を通り、美底御嶽の正面より入るを}、水祭り（どこで？）を行う。

また、オーセーピイトウは、阿底、大石、大底、新本、美底の各御嶽を回る。その晩、司やバナヌフア、ヤマニンジュウたちは各村御嶽で夜明かしをする。

ルートについては図1.p78を参考にしてください。

スウニゲーヌ 夜マチヌウゴンのパン＝神歌（大石御嶽）

トウチイ トウトウ

今日ヌ 神ピイル 上ピイルヌ アタリオルタラ 3日朝ニゲーヌ ウゴンアガオリ

今日ヤ スウニゲーウゴン アガオリ

今日ヌ 夜ヤ 夜マチヌウゴンヌ アタリオリチイ

神ヌコウムチ 上ヌコウムチ 9ナ（ハコナムト）ヌコウムト ウイムトオシヨオリ

9ナ（ハコナムト）ナフキマス イギヌパナ スリヌパナン ピサオリ

9合花ヌ 神パナ 上パナ カンダシン ウイグシン タチウセ カンミシヤグ

上ミシヤグ 神クパン 上クパン イシモラ

サバン水 アラグミ サチバナ シイミシイ コウビヌ 神ヌコウムチ

上ヌコウムチ 神シナシン シヨオリ 上シナシン シヨオリチ 夜マチヌウゴン

アガオラバ シイ水 雨ミズ 5日マリ 10日マリ 夜ヤシネ ピスヤシネ

スイスイニ タボララオリ スクルウチ クルユウヌ タメンシマタボリチ

ノウリユウ メリユウン アラシマタボリ トウリウクリン カリウクリン

シヨオリ 神ヌ前 上ヌ前 ウゴンアガオララバ イイウゴン アギシマタボリ

トウチイ

フサマラーの出現する場合

スウニゲー終了後の2日間に、瓢箪などで作った仮面やつる草で身を包み、仮装をしたフサマラーが各御嶽の井戸水を汲み取り、阿底、大石、大底、新本、美底御嶽の順にそれぞれの御嶽の井戸に水をまき、アマグヌパンを歌って雨願い祈願した。この行事は戦後数回行われ、1951年頃を最後に行われなくなった。

フサマラーは各御嶽のフサマラーヤマと呼ばれる場所で仮装行う。その後、変装したフサマラー2人(夫婦)はフサマラゲーに移動する。井戸では、水に浸けられた竹ささを使って神司が雨願いを行う。

その後、各御嶽の井戸の水を持ったのヤマニンジュー2人が加わり、美底御嶽から順に誘い合って(集落内の神道を通って)阿底御嶽に向かう。阿底御嶽では水持ちの2人と2頭のフサマラー及び神司に富嘉村の古老たちが加わり、「富嘉村のアマグイヌパン」歌いながら持参した各御嶽の水をまき散らしながら阿底のフサマラーゲーの周囲を9周回って雨願いを行う。

阿底御嶽のアマグヌパン

- 一 アミフナキンド ニガヨウル アミユタボリ、
ミズフサテル ニガヨル アミユタボリ
イリミョウダギヌ ウイナンガ アミユタボリ、
アガリミョウダギヌ シタナンガ アミユタボリ、
シラクムド アミヤル アミユタボリ、
ヌリグムド ミズヤル アミユタボリ、
シラクムド バタバムチ アミユタボリ、
ヌリグムド バタバムチ アミユタボリ、
トッキ マンチ タボラリ アミユタボリ、
ブリ マンチ タボラリ アミユタボリ
- 二 ザリザリ タボラリ ハーリヌ ヨンガナシ、
ゾリゾリ タボラリ ハーリヌ ヨンガナシ、
フダリヌ ミジヌ ウンチ ソンネ ハーリヌ ヨンガナシ、
メエマサヌ ミジヌ ウンチ ソンネ ハーリヌ ヨンガナシ、
ムトウヌ カーバ ンチャワリ ハーリヌ ヨンガナシ、
ムトヌ カーヌ アマリヤ ハーリヌ ヨンガナシ
マチリ ダーバ ンチャワリ ハーリヌ ヨンガナシ

イチ クムリン ンチャワリ ハーリヌ ヨンガナシ
ナナ クムリン ンチャワリ ハーリヌ ヨンガナシ
タバルドゥー バ シキトゥシ ハーリヌ ヨンガナシ
タバルドゥー ヌ アマリヤ ハーリヌ ヨンガナシ
シコウダ フノウラ シキトゥシ オリ ハーリヌ ヨンガナシ
カリチ ミゾーリ シキトゥシ オリ ハーリヌ ヨンガナシ
バショウチ ミゾウリン シキトゥシ オリ ハーリヌ ヨンガナシ
イリヌ イナヤ ユネナシ タボリ ハーリヌ ヨンガナシ
ニンギンヌ タミン シヨオリ ハーリヌ ヨンガナシ
アマリヤ マシヌ ウダカヌ タミン シヨオリ ハーリヌ ヨンガナシ
アガンクサヌ タミン シヨオリ ハーリヌ ヨンガナシ
マミクサヌ タミン シヨオリ ハーリヌ ヨンガナシ
クンドヌ アミヌシン タボラリ ハーリヌ ヨンガナシ
ウフシカヌ ミジヌシュ タボラリ ハーリヌ ヨンガナシ

その後、阿底御嶽の庭に、各御嶽のフサマラーたちが集合し、阿底司の周りをアマグイヌパンを歌いながら回る。その間、神司は足下の水桶から、笹ぼうきで彼らに水をかけ続ける。そして、他の御嶽から持参した水が阿底御嶽もマソミに供えられる。

阿底御嶽での祈願が終了すると、他の4つの村のヤマニンジューたちは、富嘉村のフサマラゲーから瓢箪に水を汲み取り、フサマラーと共に順に各自の御嶽へと戻っていく。

各村ではそれぞれの司と古老たちが加わり、各村のフサマラゲーの周りで、各村のアマグイヌパンを歌いつつ、雨ごいを祈願する。

フサマラーの通る道々では村人が待ち受け、「フサマラー、フサマラー ユガフアミ ムチオーリヨ、フサマラー、フサマラー ユガフアミ ムチオーリヨ」とはやしてながら、フサマラーに向けて手持ちの桶から水を投げかけながら歓迎の意を表す。それを受けたフサマラーはマーニー（クログ）の杖を振り回して人々に応えた。村人は、マーニーの葉で叩かれると命が短くなるというので逃げまどう光景があちらこちらで繰り返された。

フサマラーが持参してきた阿底御嶽の井戸水は、各御嶽のマソミと御嶽の井戸に供えられる。その後、各御嶽の庭では、司を囲んでフサマラーとヤマニンジューたちは、各村の「アマゴイノパン」を歌いつつ雨願いを祈願をした。祭りが終わった後、フサマラーの使用した仮面や草葉はそれぞれのフサマラーヤマー（大抵フサマラゲーの近

くにある。)に捨てられた。フサマラーのかぶる面は毎年、新たに作られていた。

行程は図1.p78を参照してください。

(10) ウシヌバンヌ バンユレー 土丑(つちのと うし) バンユレーの2回目

朝、雨願いをすませた各御嶽の神司たちとオシャピトゥ(島の役員)が阿底御嶽のトゥニムトである保田盛家の1番座に集まり(座順?)、阿底司の祈祷の後、この年の神行事の日取りや神行事について相談する日である。決まった事は島の役員から全島民に伝えられる。現在は公民館で行われ、決まったことは区長を通して各家庭に予定表として知らされる。

(11) ナータビーヌ ツクリニゲー 壬子(みずのえ ね)

ツクリニゲーの2回目、ツクリニゲーは、作物の豊作願いのことである。

各部落の司とパナヌファたちが各村のトゥニムト家(阿底御嶽:保田盛家・島本家・本比田家)(大石御嶽:桃盛家・西波照間家・富底家)(大底御嶽:親盛家・新川家・越地家)(新本御嶽:前迎家・東迎家)(美底御嶽:貝敷家・東田家)のブザシキー(神前)での祈願から始まる。

その後、各村の神司とパナヌファたちが各御嶽のピテヌワへ行き、各村の御嶽に神を迎え入れる。その間、ムラブサーたちはクバン(カニで作った供物)とマンズ(長命草をみそであえた供物)を準備し、神司とパナヌファたちの帰りを待って準備した供物を各御嶽のマソミの前に飾り、「穀物の茎や葉が繁り、五穀豊穰」の祈願を行う。その間、男たちも各御嶽の敷地内にて一緒に祈願をする。このような儀式が各家庭でも行われる。

(12) アミニゲーヌ アサニゲー 戌犬(つちのえ いぬ) 2回目

前述の(9)「アミニゲーヌ アサニゲー」を参照してください。

雨願いの儀式である。この行事は3日間続けられ、年に3回行われる内の2回目である。その日に備えて、各ムラ ブサーは、各家からコー(線香)とパナ(花米)を集め、アミニゲーの当日、神司とパナヌファたちが早朝、各御嶽のマソミで雨願い、作物の生育を祈願する。

その後、それぞれの御嶽のパナヌファたちは各嶽のケーヌミズを瓢箪に汲み入れ、各御嶽内の所定の場所二拝所に水を祭る。

(13) アミニゲーヌ スニゲー

前述の「アミニゲーヌ スニゲー」を参照してください。

この儀式は雨の少ない年に、阿底御嶽神司か部落会長からの要請があれば行う儀式で、ヤマニンジュー総出で行い、初めの3日は次のように行う。

まず、富嘉村のパナヌファの2人が、瓢箪に阿底御嶽のホタモリゲーの水を汲み入れ、

神道 {島本家の東脇を通り、ブニヤマを右折し、ピタ村の北側の拝所を通り、ピタ村のトウニムトウを訪れ、その後真徳利御嶽に行くまでに2つの拝所} を通って真徳利御嶽(どこで?)で水祭りを行う。

また、富嘉村のヤマニンジュウ(男)数名も阿底井戸の水を瓢箪に汲み入れ、神道 {阿底御嶽を出て、島本家の脇をブニヤマを通り、バスケのケ(井戸)をパンを歌いながら9回まわる。その後、大石御嶽、大底御嶽を回り、ケーシムリの脇を通り、勝連家と田福家の間を通りユネンケー(井戸)を9回まわり、佐事の脇を通り、田福本家の前を通り、阿利家を通り新本家の脇を抜けるようにして、新本御嶽に入る。その後、新本御嶽の東門より出て、松本家の脇を通り、美底御嶽の正面より入る} を通り、大石、大底、新本、美底の各御嶽に水祭りし、さらにスムスゲーで足を延ばし、水祭りを行う。そして、帰りにはスムスゲーの水を持ち帰り、阿底御嶽に祭る。

その他の各村の御嶽のパナヌフアたちも各御嶽のケー(井戸)の水を瓢箪に汲み取りそれぞれの御嶽の地域内の所定の場所で水祭りを行う。

その一方名石、前、南、北の各村のヤマニンジュウの1名は代表はそれぞれのワーのケーの水を汲み取り美底御嶽から順にさそいあって(どのようなルート? = 阿底御嶽のヤマニンジュウの逆の道?) 阿底御嶽に水を祭り、帰りには阿底御嶽の井戸水を持ち帰り(どのようなルート? = 前述の逆の道?)、水祭りを(どこで?)行う。

また、オーセーピイトウは、阿底、大石、大底、新本、美底の各御嶽(各村のヤマニンジュウの同じルート?)を回る。その晩、司やパナヌフア、ヤマニンジュウたちは各村御嶽で夜明かしをする。

(14) ナータビーヌ ツクリニゲー (富嘉村)

富嘉村だけで行うツクリニゲーの行事

(15) 3日クムリ 辛酉(かのと とり)

クムリは年に3回行われ、第1回目を3日クムリ、2回目を5日クムリ、3回目を7日クムリと呼んでいる。このクムリに備えて、各村のムラブサーは各家からコー(線香)とパナー(花米)を集める。各村の神司とパナヌフアが各御嶽に3日間籠り、五穀豊穡を祈願する。朝、昼、晩の3回、御嶽のマソミと御嶽の(ヒー)家のブザシキ(神棚)に供物を供えて拝み、夜はブザシキの線香を絶やさない。このクムリの期間中、司とパナヌフアの2人寝食すべてをこの御嶽で行われ、帰宅することはない。食事が家人(女)が届けたり、御嶽で煮炊きをすることもある。その間、男性は近寄ることは禁じられている。

3日クムリのパン=神歌(大石御嶽)

トウチイ トウトウ

今日ヌ 神ピール 上ピールヌ アタリオルタラ 3日カンヌ クムリソウジヌ
ウゴンヌ アタリオリチイ ムトヌファ パナヌファ ナリオルソウ
マゴヤウチ キシヨヤウチナ オリチ シイノビ パンノビ シヨリチ
シイヌフチン ウガシマタボリチ ドウシキン メエシキン シマタボリチ
神ムゲ ウイムゲ カンヌコウムチ ウイヌコウムチ
カンシンナシン シヨオリ 上シナシン シヨオリチ
夜マチヌ ウゴンアギシマタボリ カンヌコウムチ 9合花米 アラグミ サチパナ
神ミシャグ 上ミシャグ 神シナシン シヨリチ
ウゴン アガオラバ イイウゴン アギシマタボリ

トウチイ

コウビヌ マナユウヌ ナカ カワリオリ シマヌウイシ ウイヌウイシ ヤリオリ
ムトヌファ パナヌファ ナリオルソウ
カンヨミシャ ウイヨミシャ アリオルクトヤシカ
今日1日シ 3日間ヌクムリ ソウジヌクマタ ウゴンアガオラバ
イイウゴン アギシマタボリ

ブウヌ パン・・・・1日に1度はブウヌパンを行う。

アリ ピンガシガラ ンダオルタル カンヌフキ ウイヌフキ ブシチパ シイチヤマ
ケーチャナ モウダニ ケーダニ ユビンタラ フンタラ シジイケーシャ
ウシウン ゴウヌアガリオリ 神ンイショウ 上イショウヌ タメンシオリ
ビルフクヌトウガラ ンダオタル パナタラ ケータラ
サクラケーシャ シジケーシャ シンカタハ ナリカタハ タボララオリ
ウシウン ブウヌ アガオリ

神イショウ 上イショウヌ タメンシヨオリ

ブゲヌウヤス パメアガ(赤) フキ シサ(白) フキ

ブシパカ トウパカ パカヌカチ マシヌカチ

イビグサ サチグサ シヨラバ

シタニン ケーニン ウラオリ ムトブサ ニイブサン タボララオリ

ユダカチ ブシカチ シンカタハ ナリカタハ タボララオリ

アラジン カラジヌ タメンシヨオリ

トウチイ

二日目の朝は各御嶽の井戸で水を汲み入れ、アミニゲーヌアマグイヌパンを歌う。

この日、富嘉ムラから2人のパナヌファがホタモリゲー水を、神道（＝前述の道？）を通して真徳利御嶽へ水祭りに行く。また、富嘉ムラのヤマニンジュ数名も、阿底井戸の水を持って、神道（＝前述の道？）を通り大石、大底、新本、美底の順に各御嶽に水を祭り、その最後にスムスゲ（井戸）で水祭りを行う。

また、四御嶽からも各御嶽の井戸水を阿底御嶽に祭り（ルート＝富嘉ムラのパナヌファの逆？）、各御嶽の所定の拝所（？）で水祭りを行う。

三日目の朝は、クムリヌパンを歌う。

(16) ミニン バンユレー 土壬（つちのと み）

前述の(10)の「ウシヌバンヌ バンユレー」を参照してください。

朝、雨願いをすませた各御嶽の神司たちとオシャピトウ（島の役員）が阿底御嶽のトウニムトである保田盛家の1番座に集まり（座順？）、阿底司の祈祷の後、この年の神行事の日取りや神行事について相談する日である。決まった事は島の役員から全島民に伝えられる。現在では島の公民館で行われ、区長を通して各家庭に予定表が配られる。

(17) ブータビヌ ツクリニゲー 戌寅（つちのえ とら）

ツクリニゲーの3回目、ツクリニゲーは、作物の豊作願いのことである。各部落の司とパナヌファたちが各村のトウニムト家（阿底御嶽：保田盛家・島本家・本比田家）（大石御嶽：桃盛家・西波照間家・富底家）（大底御嶽：親盛家・新川家・越地家）（新本御嶽：前迎家・東迎家）（美底御嶽：貝敷家・東田家）のブザシキー（神前）での祈願から始まる。

内容は稲穂が稔り、雨が降り、穏やかな天候、島人の健康、五穀豊穡を祈願する。

ブータビのパン＝神歌（大石御嶽）

トウチイ トウトウ

今日ヌ 神ピイル 上ピイル アタリオリタラ ブタバヌウゴンヌ アタリオルタラ
神ヌコウムチ 上ヌコウムチ

九合バナヌ 神パナ 上パナ

神ミシャグ 上ミシャグ 九（ハコナ）ムリヌ スネブン

九（ハコナ）ムリヌ 神クパン 上イクパン

神シナシン シヨオリ 上イシナシン シヨオリチ マナブウヌン

ピスヌンヤリオリ アトフクルユウヤ イビグサ サチグサ ヤリオル

ムヌア シイ水 アマ水 五日マリ 10日マリ

夜ヤシネ ピイスヤスネンタボララオリ

スクルユウ ウチクルユウヌ タメシマタボリ

トウチイ

ノウリユウ メエリユウ 島メン フウヌメン タボララオリ

神ぬ前 上ぬ前 ウゴン アガオラバ イイウゴン アギシマタボリ

トウチイ

その間、各トウニムトのカミダナー（神田）に粟を播く。その後、各村の神司とパナヌフアたちが各御嶽のピテヌワへ行き、各村の御嶽に神を迎え入れる。その間、ムラブサーたちはクパン（神酒）とマンズ（花米）を準備し、神司とパナヌフアたちの帰りを待って準備した供物を各御嶽のマソミの前に飾り、五穀豊穡の祈願を行う。その間男たちは御嶽の敷地内にて一緒に祈願をする。このような儀式が各家庭でも行われる。

(18) トシヌ ヌブリー 癸羊（つちのと ひつじ）

1年に5回行われる行事の2回目めで、船旅の安全と天地への祈りで、阿底御嶽のみが行う行事である。トシヌ パツマリヌ ヌブリーとはほぼ同じように行われる。

(19) カンヌ ムヌソージ＝アガンヌソージ（甘藷の害虫駆除） 庚犬（かのえ いぬ） 2回目

虫払いに当たる行事である。1年に3回行われ第1回目と第2回目はアガン（甘藷）ヌソージ（害虫駆除）、第3回目をトゥピイムヌソージ（鳥類など、粟・麦・稻等の害鳥駆除）が行われる。行事の内容・方法は(3)のカンヌムヌソージと同じように行う。

カンヌ ムヌソージのパン＝神歌（大石御嶽）

トウチイ トウチイ

今日ヌ 神ピイルヌ イナアシビ カナムヌソウジ ウゴンヌアタリオリ

ヤアカチ キニカチヌ カンパナ 上イパナ コウチト ウイモト ムラヘオリ

カンヌコウムチ ウイヌコウムチ 神ンシナシン シヨオリ

ウイシナシン シヨオリチ

神ンムゲ 上イムゲ ウゴンアガオラバ

ビジリヤ ネジミヤ ウチガ フチガ マビキンシヨオリ フアビキンシヨオリ

ノビヤマ スビヤマ ウラオリ

カリヨシ ミウチ シチヘオリチ ウゴンアガオラバ

ニシヤマヌ山島 高サ島 ガヌギシマタボリチ

バガヌグヌ島ヌ タメンシマタボリ

島ニンズウ 村ニンズウヌタメンシマタボリ

トウチイ

(20) ヌブリー 辛 （かのと ゐ）

1年に5回行われる3回目の行事で、船旅の安全と天地への祈りで、阿底御嶽のみが

行う行事である。トシヌ パツマリヌ ヌブリとほぼ同じように行われる。

(21) アラブリ 壬子(みずのえ ね)

年3回に行われるヒブリの1回目である。この行事は女性だけの男性禁制の行事で、各ムラの御嶽で行われる。

午前中、島の各村のトウニムトで神司とパナヌファと共にピナカン(火の神)、ブザスケ(床の間)の前に神酒、花米を飾って祈願を行う。トウニムトを出る際には、ピナカンのペー(灰)を持ち出す。その後、各ムラの御嶽では、御嶽の掃除とヒブリの祈願を行う。御嶽での祈願の後、各ムラのフナミ(4ヶ所)の場所でペーハイ(灰拝み)を行い、それぞれの属する拝所での祈願に移る。ペーハイはヌブリと同じ様な方法である。その後、ピイテーヌワーへ出向いて神様をウチヌワーへお迎えをする。パナヌファは、各御嶽の井戸水を瓢箪に入れ、浜辺やその他諸々の聖地(図3-97参照)などを巡り、水祭りをを行い各御嶽に帰ってくる。帰ってくるまでには、各御嶽に所属する家々からヒブリヌイー(おにぎり)がとどいているので、それが神司とパナヌファに与えられる。

ピイテーヌワーからの帰りには新しく作ったグサン=神杖で各御嶽に戻る。

このヒブリヌイーは、絶対に男は触れてはならないし、ましてや食べることもできない。もし間違えて食べたならば、その男性は気が狂ってしまうといわれている。

阿底御嶽の場合

この行事は島で最も神高いとされる保田盛家の阿底御嶽の司とパナヌファ=ミザスケヌパンダ(女性補助的司祭者)の2人(着物を捲り上げ、左袖と着物の裾をアダンの紐でしっかり結び、四角の布で髪を覆う)が朝早く、阿底御嶽から出発し、保田盛家、西島本家を訪れ、ヌブリのある事をピナカン=火の神とブザスケ=床の間に報告、祈願する。保田盛家では、ピナカンのペー=「火の神の灰」を採取する。その際、両家からヌブリのケー(ヌブリのお粥)が供物して提供される。

その後、阿底御嶽に戻ったあと、ホタモリゲーの水を2つのカナバリ(瓢箪)に取り、午前のヌブリに出かける。フカのプルマ道を通ってプルマ崎に向かう。プルマ崎のプトグパナにミジマチをした後、プルマパマ、ブルスパニとミズマチをしながらミシュクを訪れ、祈願を行う。その後、ミシュクゲーから水を汲み取り、海岸沿いの道(カネグ道=ユベ道)を通りながら、スマザシ・パマザシでのミズマチを経て、サキバル(モウ崎)に到る。サキバルでは使っていたグサン=杖を取り替え、ピト石に向かう。ピト石での祈願を終えると午前最後の目的地のマートリィオガン(真徳利御嶽)に向かう。マートリィオガンでは村の分の3つ、ピター家の分の5つ、ナンチ家の分3つの水マチを行い午前の日程を終える。

アラブリのパン＝神歌（大石御嶽）

トウチイ トウトウ

今日ヌ 神ピイル 上ピイルヌ アタリ オルタラ

アラブリヌ ウゴンヌ

アタリオリ ヤアカチ キニカチガラ カンヌイイ ウイヌイイン シダヘエオリチ

カンシナシン シヨオリ ウイシナシン シヨオリチ 神ムゲ 上ムゲ ウゴン

アガオラバ ペエナリオチラ イナミシグリ シヨオリ ケーミグリ シヨオリ

オオジンヤトカ シタジンヤ フシカタボリチ

ニシヌ ブウムト オショオル 神ヤ ミガフクン ピサタタボリ

ペエフクンピサタボリ 年ケシキ ブルケーシヤ オシキケシャハン ナツケシャ

アラシマタボリチ ノウリユウ メーリユウン アラシマタボリ ブタシ マダシン

タボララオリ トリイオクリン カリイウグリ シヨオリ 神ヌ前 上イヌ前

ウゴンアガオラバ イイウゴン アリタボリ

トウチイ

マソミだけで拝む。線香は立てない。トオニ（桃盛）からミキ（神酒）を2つ、家々から、アラブリノイイ（おにぎり）、パツとして捧げる。そしてブザシケにも持参して、供える

①阿底御嶽の行程

②大石 ヌ

③大底 ヌ

④新本 ヌ

⑤美底 ヌ

⑥全御嶽での行程

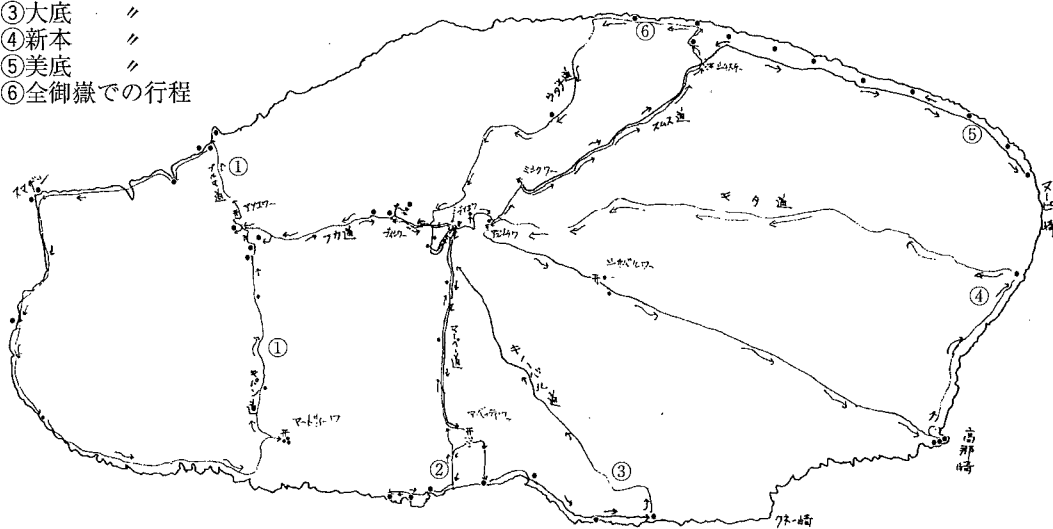


図3. ヒブリの各御嶽の行程 ・は水マチ場所

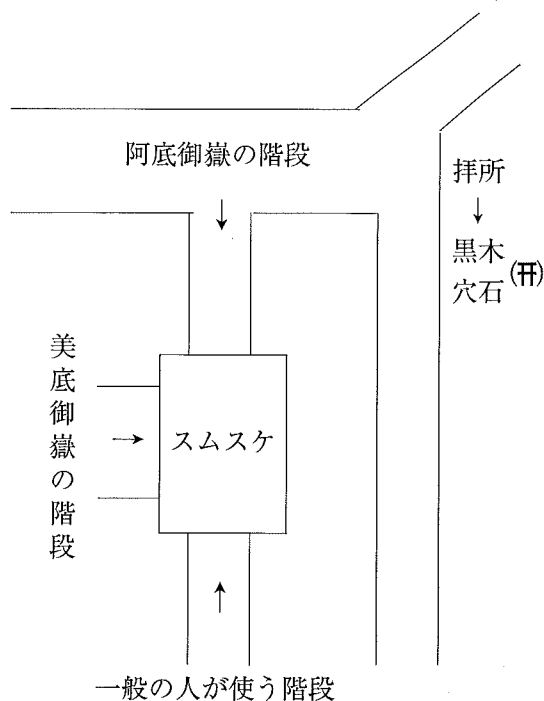
午後からは、阿底御嶽を出発した神司とパナヌフアが、東に向かい各ムラの御嶽で祈願を行う。その際、各御嶽や所定の場所では、オーロロと呼ばれるパン（神歌）が奉納される。阿底御嶽を出発した一行には各ムラからの司やパナヌフアたちが新たに加わり、合流して、スムスゲーをめざして、ヒブリの一行が進んでいく。そのルートは次のようになる。

富嘉村を出たヒブリの一行は、バスケのケー（井戸）に向かい、その井戸を3回まわり、持参した水を奉り、祈願を行う。それが終わると大石御嶽に向かう。その途中、プリゲ（井戸）で水をいただき、カンチャマ（＝カンチ・アザマナグの住居の伝承）で持参してきた水を奉り、祈願を行う。大石御嶽に着くと大石御嶽のトウニムトである桃盛家、西波照間家、富底家から届けられたケー（お粥）と持参した水を御嶽のマソミに供えて祈願を行う。

その後、阿底御嶽の神司・パナヌフアを先頭にしてナータヤマ、島本家、ケーシムリ御嶽を経て、大底御嶽に入る。大底御嶽ではウヤマシ（親盛）家から届けられたケー（お粥）と持参した水を御嶽のマソミに供え、祈願する。供えたケーはそれぞれでいただき、大底御嶽を後にする。

大底御嶽を出た一行はオヤケアカハチの居住の伝承のある屋敷の南の道を経由して、ユネンヤマ・ユネンケーに到着する。ユネンケーでもその周囲を3回まわって祈願を行う。その後、田福本家、阿利家の前を経由して、新本御嶽に入る。ここでもムーゲ（東迎）家から届けられたケーを供え、いただく。その後、美底御嶽に入り、プハティ（東田）家から届けられたケーを供え、いただき、スムスゲーに向かう。

スムスゲーでは、井戸の周囲を3回まわり、持参してきた水をスムスケーと西隣のキナー（黒木）と（？）の3つの拝所に供え、祈願を行う。その後、阿底御嶽の階段を通過して、スムスケーの水を持参した2つのカナバリに汲み取り、マシュクムラ跡をめざして進み、シシイシとキナヤマで祈願をする。マシュクムラ跡から隊列は替わる。隊列はブドマリ司を先頭並び替えて進む。そ



れは、ウダツ道から西側はブドマリ司の担当区域内に入ることになることから。ウダツ
ゲーから南下して島の中心に向かって進む。現在、碎石場がある海の見えるところで、
西表島のクノーラ（古見）、ミヨーシク（？）に向かって、オーロロとパンを唱える。こ
の場所での司祭の中心はブドマリ司である。その後、燐鉱採石跡の脇を通ってブドマリ
道を前集落へと南下をする。大底御嶽近くまで来ると、一行は阿底御嶽のグループと他
の4つの御嶽のグループの2手に分かれる。4つの御嶽のグループは大底御嶽に向かい、
祈願を行う。その間、阿底御嶽のグループは公民館脇を通り、ナータヤマで、4つの御
嶽のグループが到着するのを待つ。合流後、タカタミチを抜け、大石御嶽の向かう。こ
こでもまたグループは2手に分かれる。4御嶽のグループは、大石御嶽、ユンヤマでの
祈願のために別行動を取る。その間、阿底御嶽のグループはユネンヤマを通り過ぎて、
4御嶽のグループが到着するのを待つ。合流後、ビラツヌウガリを越え、バスケのケに
向かう。ここでも4御嶽のグループは祈願をする。その間、阿底御嶽のグループはしば
らくの間、待機をする。

そして、最後はホタモリゲと阿底御嶽に持参してきたスルスゲの水を捧げ、ヒブリの
行事の全ての祈願を終える。（集落内は図1、集落外は図3、を参照）

(22) 5日クムリ 辛酉（かのと とり）

前述の(15)の「3日クムリ」を参照してください。

「5日クムリ」はどのような形態であったのか？

(23) 2月ミョウクチェー 壬申（みずのえ さる） 2回目

前述の「ミョウクチェー」を参照してください。

この行事は島内の神聖なピテヌワー（野原の御嶽）や神様のお通りになるカミチ（神
道）やその他の聖なる所々の拝所への農道を清掃することで、年に3回行われている。
ミョウクチェーが近づくと各ムラのムラブサーは、15才から50才までのヤマニンジュウか
ら花米を集め、それでミシ（神酒）を作り、ミョウクチェー当日、ピティヌワー（真徳利
御嶽、阿幸俣御嶽、白郎原御嶽）に運ばれる。

司や島の老人たちが主にこの仕事に携わるが、台風など仕事量が多いときは島のフダ
ニン（生産人）も加わる。これらの清掃が終わると、司やパナヌファーが「島人の健康
を賜り、畑仕事に励ましてくださり、豊作を恵んでください。豊作をお願いします。」と
祈願をする。

供物は、ミシ、塩、ピッル（ニンニク）を使用する。祈願が終わると、作業に携わっ
て方全員でミシ＝神酒を飲みながら休憩を取り、その日の作業を終える。

ウチイヌワも同時に清掃を行うマソミについては女性が清掃するのが原則である。

どうしても男手が必要なときはカマガーと呼ばれる方がその任にあたる。

各御嶽のミヨウクチャーの分担場所については図3を参照

(24) 2月カンパナ 癸酉（みずのと とり）

カンパナは、神への納入米としてグサグミー（5勺米）が各村のムラブサーたちによってヤマニンジュから集められ、各村の司やオシャピトゥーの元に捧給として届けられる。オシャピトゥーは富嘉村の阿底御嶽をかわきりに各村の司宅を訪れ、各司に今年の豊作祈願の依頼を行う。各御嶽の司の家では、届けられた5勺米（グサグミー）と神酒・塩を供物として供え、司によって、ブザスケーの神に祈願をし、その後、参加者全員によって祈願が行われる。

(25) 2月シマフサラー 癸羊（みずのと ひつじ） シマフサラーの2回目

シマフサラーは、浄め・厄払いの行事であり、悪魔払いの行事であり、年3回行われる。各村のムラブサーは各家から線香と花米を集め、これを司は御嶽に供え、疫病が入ってこないように祈願をした。以前は、部落の四方の外れや入り口のまたぐようにして、締め縄で張り巡らし、牛や山羊の皮などをぶら下げ、部落に悪い病気や悪霊が入らぬように祈願した。

(26) 2月トゥマニゲー 土牛（つちのと うし）

トゥマニゲーは、泊願い、いわゆる「天候願い」である。年に3回行われ、これは最初のトゥマニゲーである。

まず、各村のムラブサーは、その日に備えて神酒を造り、当日には船着場海岸近くの拝所で行われる。各村の拝所はそれぞれ決まっており、北村はマドマル、南村はペドマル、前村と名石村はイナマ、富嘉村はプルマヤマとなっている。また担当の司もそれぞれ決まっている。

(27) ブサチマチー 庚寅（かのえ とら）

この行事は、南村の前迎家と前村の親盛家の両家が行う。

この両家では、他家に先駆けて早めに神畑に粟を作り、この行事に間に合わせ収穫する。親盛家の畑は前村の南、アバツテワにいく途中のにあるキナーヤマの北東にある。原名はナータバルである。東迎家の畑はスサバルワの北東にあり、神道を通っていく原名はガラスピイナーになる。

行事の当日、親盛家では入り口とピナカンにはしめ縄が張られ、家の主人は、神畑で作った粟のおにぎりを3個、ピイテーヌワに持参し、「農作物を作ったがあまりよくないけど、今日持参してきました。神様申し訳ございません。これから後、村人が作る粟是非とも立派収穫させてください。」と祈願する。その後、御嶽の井戸から汲んだ水をピナ

カンのヨウズン（3つの石）に供え、その後、その水を使って粟の粥を作る。

一方親盛家では、大底御嶽とケーシムリ御嶽の司が訪れ、アンヌイイと3個のピール（ニンニク）の玉を入れたピラグ（竹籠）を無言で受け取り、蓋を閉め、着物の袖裏に隠すようにしてアバッテワール向かって出発する。パツ（供え物）は御嶽のブーに供えられる。

粟については次のような由来がある。イシカヌブヤとイシカヌパアの夫婦が、島の東端のタカナザシ＝高那崎に上陸した際に1匹のカニから粟の穂をもらい受けた。これが波照間島における粟の始まりとされる。

(28) アミネゲー アサニゲー 庚子（かのえ ね） 3回目

前述の(9)「アミニゲヌ アサニゲー」を参照してください。

雨願いの儀式である。この行事は3日間続けられ、年に3回行われる内の2回目である。その日に備えて、各ムラブサーは、各家からコー（線香）とパナ（花米）を集め、アミネゲーの当日、神司とパナヌフアたちが早朝、各御嶽のマソミで雨願いと作物の生育を祈願する。その後、それぞれの御嶽のパナヌフアたちは各御嶽のケーヌミズを瓢箪に汲み入れ、各御嶽内の所定の拝所に水を祭る。

(29) トリヌバンユレ 土酉（つちのと とり） バンユレーの3回目

前述の(10)の「ウシヌバンヌ バンユレー」を参照してください。

朝、雨願いをすませた各御嶽の神司たちとオシャピトゥ（島の役員）が阿底御嶽のトゥニムトである保田盛家の1番座に集まり（座順？）、阿底司の祈祷の後、この年の神行事の日取りや神行事について相談する日である。決まった事は島の役員から全島民に伝えられる。現在はオーシャ（公民館）で公民館の役員と各村の役員、各御嶽の司が集まって相談して決めている。

(30) トピムヌニゲー 辛卯（かのと め）

（富嘉村だけのヌブリ）

トピムヌニゲーのパン＝神歌（大石御嶽）

トウチイ トウトウ

今日ヌ 神ピール ウイピルヌ アタリオルタラ

トブムヌニゲヌ ウゴンヌ アタリオリチ ヤーカチ キニカチガラ

神パナ 上パナ コウムト ウイムト ムラヘエオリ

神シナシン シヨリ ウイシナシン シヨオリチ

神ヌ コウムチ 上ヌコウムチ 神パナ 上パナ コウムト ウイムト コウビヌ

神ヌコ

ウムチ 上ノコウムチ カンシナシン シヨオリチ
 ウゴンアガオラバ ヌウシヤン シムンヌ オランバン プトウクヤ アトウクヤ
 ニシヌ 高さ島 山島が ナハ トウサガ ヌギシマタボリチ バガヌグシマヌ
 タメンシマタボリチ スクルユウ ウチクルユウ スクルハケ シヨラバ
 ノウリユウ メーリユウ タボララオリ ブダシン マダシン タボララオリ
 トウリオク シヨオリ カリオクリン シヨオリ
 神ヌ前 上ヌ前 ウゴンアガオラバ イイウゴン アギシマタボリチ
 島ダメシ シヨオリウヤン ヤシダミシヨオルウヤン
 島ニンズウ 村ニンズウ アガマ シユラマ
 ケーラ バタンチー パランチー シマタボリ
 トウチイ

※ ムラブサーは花米、線香 9つ（はこなむと）を持参する。

(31) ヌブリ 辛ゐ（かのと ゐ）

1年に5回行われる4回目の行事で「船旅の安全と天地への祈り」である。

トシヌ パツマリヌ ヌブリとほぼ同じように行われる。

(32) ナーブリ 壬子（みずのえ ね）

年3回に行われるヒブリの2回目、この行事は女性だけの男性禁制の行事である。

大石御嶽のパン＝神歌（省略）

アラブリと同じ、線香を立てない マソミで拝む、桃盛のミキ イチン(2つ) 又各家々からヒブリヌイイが届けられ、それを使用して拝む。

(33) カナムヌソージ＝トウピムヌソージ（鳥類等の害鳥駆除）辛酉（かのと とり）3回目

虫払いに当たる行事である。1年に3回行われ第1回目と第2回目はアガン（甘藷）ヌソージ（害虫駆除）、第3回目をトウピムヌソージ（鳥類など、粟・麦・稻等の害鳥駆除）が行われる。

この日の朝早くから、願いのできる人（ニゲールピトゥ？）1名が美底御嶽、新本御嶽、大底御嶽、大石御嶽、阿底御嶽の順 {ルート？＝阿底御嶽を出て、島本家の脇をブニヤマを通り、バスケのケ（井戸）でパンを歌いながら9回まわる。その後、大石御嶽、大底御嶽を回り、ケーシムリの脇を通り、勝連家と田福家の間を通りユネンケー（井戸）を9回まわり、佐事の脇を通り、田福本家の前を通り、阿利家を通り新本家の脇を抜けるようにして、新本御嶽に入る。その後、新本御嶽の東門より出て、松本家の脇を通り、美底御嶽の正面より入るを} に、パン（内容は未調査）を歌いながら廻る。

※ カナムヌソージ、スクマンマシイ、7日クムリのいずれも前のカナムヌソージと

同じである。

カナムヌソーグヌ パン (大石御嶽)

トウチイ トウチイ

今日ヌ神ピイル 上ピイルヌ アタリオルタラ スクマンマッシイ パナマシイヌ
ウゴンヌ アタリオリチ 神ンヌ所 ナミナミオルウヤン 神ン シケシオーリ
上シケシオーリチ 神ヌコウムチ 上ヌコウムチ 九合バナス
神パナ 上パナ 神ンミシャグ 上イミシャグ 9ナムリヌ 神クパン 上クパン
九ナムリヌ スネブン コービヌ 神コウムチ 上ヌコウムチ 神シナシンシヨオリ
上シナシン シヨオリ ウゴンアガオラバ スクルユ ウチクルユウヤ
マナ ブーヌン ピスムン ヤリオリ オオフチア ケーフチア ヤリオルムヌ
ナミケシャハン オシキケシャハン アラシマタボリチ
スクユウ ウチクルユウヌ タメン シマタボリ
シルミジ アマミジヤ 五日マリ 10日マリ 夜ヤシネン ピスヤシナエン
スイスイニ タボララオリ ノーリガフ スラガフヤ 島メン フウヌメン
マンゾクヌユウバ タボララオリ トリイオクリン カリオクリン シマタボリ
ブダシン マダシン タボララオリ 神ぬ前 上ヌ前 ウゴンアガオラバ
イイウゴン アギシマタボリ アガオリヌ アマリヤ 島ニンズウ 村ニンジュウ
アラジ カラジ ケーラ バタイチン パラインチン シマタボリ
トウチイ

※ 花米9合、ミキ、イチン(2)、・9ナムリのクパン、9ナムリのスネブンを準備する。

(34) スクマンマッシ 辛酉(かのと とり)

豊年祭30日前の神行事である。プリンタマ(プリンの小さい物)ともいう。早まきの粟の収穫に感謝する儀式で、アンヌスクマンとも呼ばれる。

各御嶽では、各御嶽の田畑(稲はフトーマス、粟はナーマス)?から、稲や粟の熟した物を選び、初穂として神に供え、まだ田畑に残っている分の立派な稔りを祈願する。そして各家でブザシキ(床の間)、家の一番座の天井の中央に粟の穂を三つ下げ、各家ではスクマンヌイ=握り飯を3個ずつ、ピナカン(火の神)、ウヤピトウ(仏壇)、ブザシキ(床の間)に供え、ブナリヌカンヌイ=握り飯としてブナリ(女姉妹)届けていた。この行事の30日前がブサシマチであり、またスクマンマッシの30日後に控えて、プーリンにあたる。

一方スクマンマッシの朝、保多盛家ではナーマスの畑から熟した粟の穂を刈り取り、

その一部をミシ（神酒）やアンヌイイにして、米の握り飯といっしょに包み、プルマ崎にあるブトゥグバナと呼ばれる石にこれを捧げた。

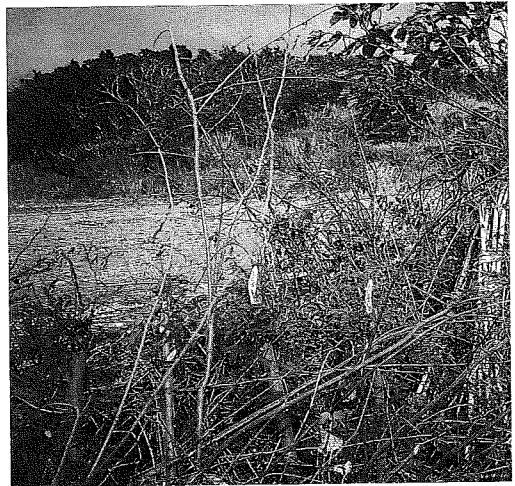
(35) 7日クムリ 辛酉（かのと とり）

前述の(15)の「3日クムリ」を参照をしてください。

「7日クムリ」は「3日クムリ」とどのような違いがあるのか？

(36) シピランカン 癸酉（みずのと とり）

この一年間の天候願いが叶ったことに感謝をして、来年の豊作もあわせて祈願する。
ヒブリなどで司など神人が各御嶽で使用したグサン＝杖を神司が指定した場所（？各御嶽のジウシヤマ＝地押す山）に投げ捨てながら「今日の供物をどうぞ舟に積み込み親神の元へお持ち帰りください。」とグサンの束を舟に見立てながら神の帰りの無事を合わせて祈願する。※シピラカンとは1年間使用した杖をまとめて納めること



阿底御嶽のジウシ山

シピランカンのパン＝神歌（大石御嶽トウチイ トウチイ

今日ヌ神ピイル 上ピイル シピラカン ウゴンヌアタリオリチ

神ヌ所 ナミナミオル ウヤン 神 シケーシオリ 上シケーシオリチ

1年間ヌ ウゴン アガオルル 神ヌジイ 上ヌジイ ピナリバシナ

モトヘオリチ 神シケーシ シヨオリ 上シケーンシン シヨオリ

ウゴンアガオラバ ナガビン ジンビン ノブリオリ

トウチイ

※オーシャ（大石御嶽）でパンを全部奉納した後に、ジウシ山でジイ（土を押すこと）を行う。

ジウシ山でのパン（神歌）

神ヌ所 ナミナミ オール ウヤン ウラウラ サキザキオール ウヤン

神ヤピトウチ 上ヤピトウチヤリオリ

今日ヌカンピイル 上ヌカンピイル シピラカンヌ ウゴンヌ アタリオルトラ

1年の ウゴン アガオレ アル 神ヌジイ 上ヌジイ

今日ヌ マナヌトキナガ ヒダリガシナガ モトヘオリチ 神シケーシン

上シケシン シヨオリ ウゴンアガオラバ ナガビン ジンビン ノブリオリ
キュウノカジ マアヌカジ トウヌカジ マアヌカジ トウヌカジ マアヌカジ
カリヨシドシイ カリヨシドシイ カリヨシドシイ
トウチイ

※ 朝マソミで、花米と線香ピトピサ、ピケテおいて 昼3時頃 ジウシヤマに
持って行って拝む。

(37) ヌブリ 庚竜（かのえ たつ）

1年に5回行われる最後行事の「船旅の安全と天地への祈り」である。

詳しくは1回目のヌブリである、(4) トウスヌ パツメヌ ヌブリを参照

(38) ブリブチ 壬午（みずのえ うま）

年3回に行われるヒブリの3回目のことをいう。詳しくは(21)のアラブリを参照

(39) シマフサラ 癸羊（みずのと ひつじ） シマフサラの3回目

シマフサラは、浄め・厄払いの行事であり、悪魔払いの行事であり、年3回行われる。各村のムラブサーは各家から線香と花米を集め、これを司は御嶽に供え、疫病が入ってこないように祈願をした。以前は、部落の四方の外れや入り口のまたぐようにして、締め縄で張り巡らし、牛や山羊の皮などをぶら下げ、部落に悪い病気や悪霊が入らぬように祈願した。

(40) グンガツ（5月）ミョウクチェ 戊子（つちのえ ね） 3回目（プーリンの初日）

この行事は島内の神聖なピテヌワー（野原の御嶽）や神様のお通りになるカミチ（神道）やその他の聖なる拝所への農道を清掃することで、年に3回行われている。

ミョウクチェーが近づくと各ムラのムラブサーは、15才から50才までのヤマニンジュウから花米を集めてミシ（神酒）を作り、ミョウクチェー当日、ピティヌワー（真徳利御嶽、阿幸俣御嶽、白郎原御嶽）に運ばれる。

ミョウクチェーは大方は司や村のブヤイマー（老人）たちが主にこの仕事に携わるが、台風など仕事量が多いときは島のフダニン（生産人）も加わる。これらの清掃が終わると、司やパナヌファーが「島人の健康を賜り、畑仕事に励ましてくださり、豊作を恵んでください。豊作をお願いします。」と祈願をする。

供物は、ミシ、塩、ピッル（ニンニク）を使用する。祈願が終わると作業に携わって方全員、ミシ＝神酒を飲みながら休憩を取り、その日の作業を終える。

各御嶽のミョウクチェーの場所と範囲は次のとおりである。

阿底御嶽へのミョウクチェーの神行事は阿底御嶽から南に下りナンチ家の後ろを左手を通り東に回り、プーニー山をの右手に折れ、ピタ村の後ろの拝所を通り、ピタ村の本家

の拝所を通り、ペメシユクヤマ手前の拝所と御嶽が見える坂の途中の拝所を経て、真徳利御嶽につながる。

大石御嶽と大底御嶽のミヨウクチェーの神行事は、大石御嶽の司が桃盛、宮良殿地、喜瀬殿地、大石御嶽を経て、親盛で大底御嶽の司と合流して大底御嶽で祈願し、その後、ケーシムリ御嶽を経て、その次の拝所、キナ山、阿幸俣御嶽の6ヶ所（名石？、前？ヶ所）を経て、最終の水マチへと向かう。その後、元の道に戻り、ケーシムリー御嶽の手前で別れ、それぞれの村の御嶽に戻る。阿幸俣御嶽に大石御嶽の一つ、大底御嶽から2ヶ所からミシ（神酒）が提供される。

新本御嶽と美底御嶽のミヨウクチェーの神行事はそれぞれの御嶽の司や村のブヤイマー（老人）が各々の御嶽から直接、白郎原御嶽のそれぞれの拝所に出かけて行事を済ます。（図4を参照）

ウチイヌワも同時に清掃を行うマソミについては女性が清掃するのが原則である。どうしても男手が必要なときはカマガーと呼ばれる方がその任にあたる。カマガーの仕事は御嶽の清掃・司の夜籠りに必要な薪等の準備、アミニゲーの時には司と共に夜籠りをして祈願を行う。任期はアミジュワーから次のプーリンまでの1年間である。

以前のプーリンは第1日目のミヨウクツェーの日に、ピテヌワーの御嶽から、ヤマニンジュによって、プーリンに使う薪、天幕をはる竹材等がウツヌワーである各ムラの御嶽に運ばれる。

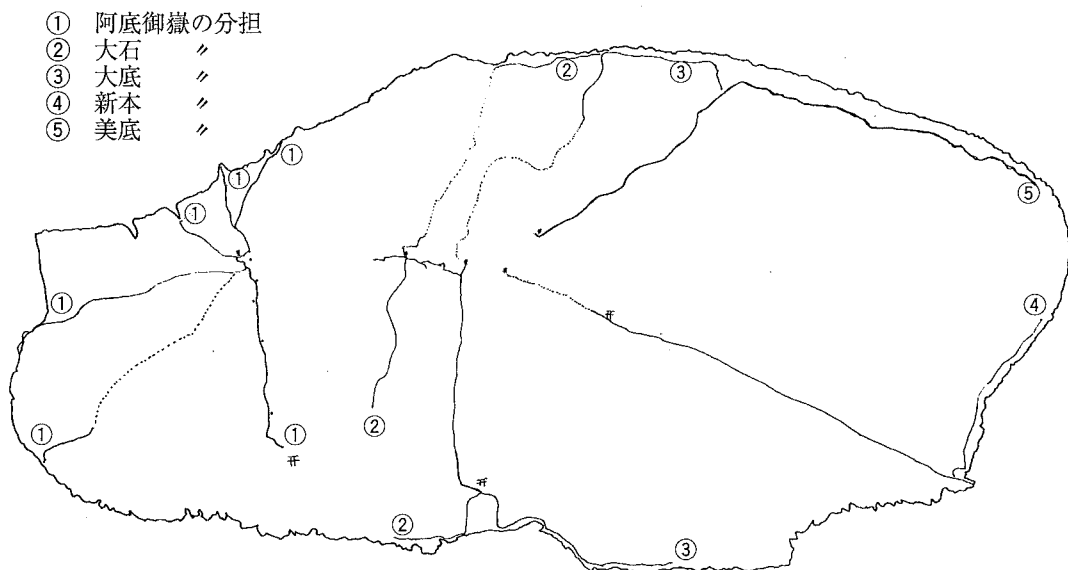


図4. ミヨウクチェーの分担

ミョウクツエーの晩には、各御嶽のヤマニンジュウはトウニムトゥ（現在は各村の会館）に集合し、イショウブサー（漁をする係り）、サキブサー（酒を集める係り）、コッ
ツアポー（料理係）、ゾーレー（料理場係り）、ミスブサー（ミキ 神酒を作る係り）、コ
ーシアタリ（餅を作る係り）の仕事分担が決められる。

(41) グンガツ（五月）カンパナ 土丑（つちのと うし） （プリンの2日目）

カンパナは、神への納入米としてグサグミー（5勺米）が各村のムラブサーたちによ
ってヤマニンジュウから集められ、各村の司やオシャピトゥーの元に捧給として届けられる。
オーシャピトゥーは富嘉村の阿底御嶽をかわきりに各村の司宅を訪れ、各司に今年の豊作
祈願の依頼を行う。

各御嶽の司の家では、届けられた5勺米（グサグミー）と神酒・塩を供物として供え
る。その日は、それぞれの係りは自分のムラの御嶽に集合し、プーリンの諸準備にあた
る。これらの諸準備はすべてのヤマニンジュウの労働提供によって行われる。

5月神パナのパン＝神歌・・・・前回の神パナと同じ

- ・ 富嘉村の司の家へビニール袋2つ、3合分けて持す。
- ・ 御嶽に9合花米、お酒カン瓶2本と盃、クパンの代わりに塩を小皿2枚入れて
- ・ このコウムチで（まさんを行う）、線香九ナモト
- ・ 五月の神パナの朝は、イショウ、クパン ミキとでピケル？

線香はピトピサ

(シサリグチ) (大石御嶽)

マナヌ 神ピイル 上ピイルヌ アタリオルタラ

ウバナヌ 神ヨイ 上ヨイヌ アタリオルタラ

ヤマニンジュウ スウニンジュウ ナリオルソウ

トウニヌムトヌ キニナオリチ イショグマリ シオリチ インウリ ショウタラ

神クパン 上クパン テーニン マーニン トウラシマタボリチ

アチャヌ 神ヨイ 上ヨイヌ ウゴンアギシマタボリタル

神ヌコウムチヤ 神クパン 上クパン 神ミシャーグ 上ミシャーグ

コービヌ 神ヌコウムチ シナヘオリチ ウゴンアガオラバ

アッチャーヌ 神ヨーイ 上ヨーイヌ ウゴンヤ イイウゴン アギシマタボリ

トウチイ

(43) アサヨイ 辛兎（かのと う）

プウリンの四日めに行われる行事である。神司が各御嶽のマソミでプウリンヌアサヨ
イのパンを捧げる。昨日のプウリンが無事に終えたことに感謝を申し上げる。

プウリンのアサヨイのパン＝神歌（大石御嶽）

トウチイ トウトウ

今日ヌ 神ピイル 上ピイル ウバナヌ 神ンヨイ ウイヨオイヌ
 アサヨイヌ ウゴンヌ アタリオリチ 神ヌコウムチ 上コウムチ
 九合花ヌ 神カンパナ 上イパナ 神ミシャグ 上ミシャグ 神クパン 上クパン
 神グシン 上グシン コービス 神ヌコウムチ 上ヌコウムチ
 カンシナシン シヨオリ ウイシナシン シヨオリチ アサヨイヌ ウゴン
 アガオラバ ムトヌファ パナヌファ ヤマニンジュウ スウニンジュウ
 ウシトウ ジュナリオルソウ ケーラ ドウーズサン カリズサン
 カンシケーシオリ ウイシケーシオリ 神ンシカラン ウイヌシカラン
 ムツァシマタボリ イイウゴン アギシマタボリ

トウチイ

九	クパン 小皿3枚
ナ	
ペ ム	神酒 ピトシキ
ア ト	
九	花米9合 花米 1
十	
九	立ちグシン 立ちウセ
ペ	
ア	立ちグシン 立ちウセ
	立ちグシン 立ちウセ
	(魚を乾燥させて作った供物)

一方、この日はこれまで一年もしくは二年間努めた「カマガー」の役の交代の儀式が村司の仲介の元に行われる。

(プウリンのアサヨイの朝にはカマガの交代する時のパン)

クツンヌ カマガヤ〇〇〇〇ヤリオリ、ナアシキヤ△△△△ヤリオリ
 マリヤ◇◇◇◇ヤリオリ
 ウゴンアガ オタラ、イイウゴン アギシマタボリオリ
 フクラハヌ シビヌウゴン アガオルタ
 神ヌコウムチ 九ナモト 神パナ上パナ 神シナシン ショウリチ

ウゴン アガオラボ イイウゴン アギシマタボリ

トウチイ

※ ○△◇は人の名前

後の交代する人は、線香をピトピサ 花米を添えて行う。

大底御嶽の由来のある「大石」では名石のトウニムトの一つである富底家によって、アサヨイが行われた。富底家に関係のある家々からコオムチ等の供物が捧げられた。

夕方には公民館の主催によるマシムドリ（巻踊り）が公民館前のムシャーマ広場で実施された。

巻踊りのジラバ（プーリン）・・・・・・オーシャ（公民館）場合

：と（）の後は掛け合い

1：ヒヤサ キューヌピイバー：ハーリ クガニーピイバ ムトゥーバシ：ヨーホナイ

囃子 今日の日を 囃子 黄金の日を 元にして 囃子

2：ヒヤサ カンクパナ：ハーリ ウバチドゥ タボラリイ：ヨーホナイ

囃子 神？花 囃子 御初を 賜り 囃子

3：ヒヤサ ナウリイユウバ：ハーリ ミギリイユバ タボライ：ヨーホナイ

囃子 稔った世を 囃子 実った世を 賜り 囃子

4：ヒヤサ ナウリイユウヌ：ハーリ ミギリイユヌ ミブギニ：ヨーホナイ

囃子 稔った世を 囃子 実った世を お陰で 囃子

5：ヒヤサ ニゲタムチイ：ハーリ シジイタムちイ タボラレ：ヨーホナイ

囃子 願ったとおり 囃子 祈ったとおり 賜り 囃子

6：ヒヤサ フカヌムラ：ハーリ ムトゥムラ タボラリ：ヨーホナイ

囃子 富村ぬ村 囃子 元村 賜り 囃子

7：ヒヤサ ウヌニガイドゥ：ハーリ ウヌカフドゥ ニガヨル：ヨーホナイ

囃子 その願いを 囃子 その果報を 願うよ 囃子

中歌（アガリヨウカタジラバ） ◎は囃子

1 あがりようから ふにぬくんちう（ホーユイヤーサ）

東方から 舟がやって来るよ 囃子

◎ バヤガーセーヌ ドンキャハナイ サヨミヤヨ サヨミヤヨユウワナウレ

◎ バヤガーセーヌ ドンキャハナ ユヌユードゥ ユーバナウレ

◎ バヤガーセーヌ ドンキャハナイ サハメヨハメヨ ユウナウレ

2 うはらから みじいぬくんちう（ホーユイヤーサ）

大きい原から 水がやってくるよ 囃子

◎ バヤガーセーヌ ドンキャハナイ サハメヨハメヨ ユウナウレ

- 3 なゆぬふにどう やりおるよ (ホーユイヤーサ)
 どちらの舟で あるでしょうか 囃子
 ◎ バヤガーセーヌ ドンキャハナイ サハメヨハメヨ ユウナウレ
- 4 なゆぬふにん あらぬすよ (ホーユイヤーサ)
 どちらの舟でも ないですよ 囃子
 ◎ バヤガーセーヌ ドンキャハナイ サハメヨハメヨ ユウナウレ
- 5 あわだらどう ましやわるよ (ホーユイヤーサ)
 粟俵を 運んでくださるよ 囃子
 ◎ バヤガーセーヌ ドンキャハナイ サハメヨハメヨ ユウナウレ
- 6 くみだらどう ましやわるよ (ホーユイヤーサ)
 米俵を 運んでくださるよ 囃子
 ◎ バヤガーセーヌ ドンキャハナイ サハメヨハメヨ ユウナウレ
- 7 ふかむら ましやわるよ (ホーユイヤーサ)
 富嘉村へ 運んでくださるよ 囃子
 ◎ バヤガーセーヌ ドンキャハナイ サハメヨハメヨ ユウナウレ
- 8 うやぎむら ましやわるよ (ホーユイヤーサ)
 親村へ 運んでくださるよ 囃子
 ◎ バヤガーセーヌ ドンキャハナイ サハメヨハメヨ ユウナウレ
- 9 うやぎむら とうゆまーれ (ホーユイヤーサ)
 親村様 豊かになってください。 囃子
 ◎ バヤガーセーヌ ドンキャハナイ サハメヨハメヨ ユウナウレ
 後歌 (ウブヌシタヌギシヤマジラバ)
- 1 うぶぬしいた ぎいしゃまーや ヨーホー (ホーユイヤーサ)
 (うぶしいた=地名 の ぎしゃま=人名)
 とうむるざしーしい ふあぬぶねよ
 (とうむるざし=地名 男の子がいたよ)
 (◎ぎいしゃまやよ ふあぬびげよ)
- 2 なゆぬーゆどう とうばらしちゃ ヨーホー (ホーユイヤーサ)
 (何の故に 殿方として)
 いひきゃぬゆーどう とうばらしちゃよ
 (いかなるわけで 尊敬されたのか)
- 3 なゆぬーゆーや あらぬすよ ヨーホー (ホーユイヤーサ)

(何の故でも ないですよ)
 いひきゃぬゆーや あらぬすよ
 (いかなるわけでも ないですよ)

4 むんなまぬ ゆやいどう ヨーホー (ホーユイヤサ)
 (桃が生の ときには)
 かきいなまぬ ゆやいどうよ
 (柿が生の ときには)

5 むんぶらば ぎしゃまやよ ヨーホー (ホーユイヤサ)
 (桃をもぎ取るときには ぎしゃまやよ)
 あはまむから ぶりやわりよ
 (甘い桃から もぎ取りなさいよ)

6 かきとうらば ぎしゃまやよ ヨーホー (ホーユイヤサ)
 (柿をもぎ取るときには ぎしゃまやよ)
 あはまむから ぶりやわりよ
 (甘い柿から もぎ取りなさいよ)

巻踊りのジラバ (アミジュワ) 公民館の提供資料

: の後は掛け合い

1 : ヒヤサ キューヌピイバー : ハーリ クガニーピイバ ムトゥーバシ : ヨーホナイ
 2 : ヒヤサ ヤニンユドゥ : ハーリ クナチユドゥ ニガヨル : ヨーホナイ
 3 : ヒヤサ シラミジイドゥ : ハーリ アマミジイドゥ ニガヨル : ヨーホナイ
 4 : ヒヤサ イシイカマリ : ハーリ トウカピサミ ニガヨル : ヨーホナイ
 5 : ヒヤサ ナウリユドゥ : ハーリ ミギリユドゥ ニガヨル : ヨーホナイ
 6 : ヒヤサ ナウリユヌ : ハーリ ミギリユヌ ミブギニ : ヨーホナイ
 7 : ヒヤサ ウヌニガイ : ハーリ ウフカフドゥ ニガヨル : ヨーホナイ

(44) アミジュワ 壬竜 (みずのえ たつ)

アミジワの行事は、プーリンの行事とはほぼ同じだが、雨ごいに関する行儀がつけ加えられて行われる。初日はプーリンと同じように進められる。

アミジワのパン＝神歌 (大石御嶽)

トウチイ トウトウ

今日ヌ 神ピイル 上ピイルヌ アタリオルタラ ゲンユウ クツンユウ シイ水
 雨ミズ 5日マリ 10日マリヌ ウゴンヌアタリオルタラ ムトウファ

パナヌファ ナリオルソウ 神ヌ所 ナミナミオル ウヤン
カンシケーシン シヨオリ ウイシケーシン シヨオリ ウイシナシン シヨオリ
ヤマニジュウ スウニンジュウ ウナリオルソウ ウシトウジュウ
ナリオルソウ 神ヌブナ 上ヌブナオリチ 神ヌコウムチ ウイヌコウムチ
カンシナシン シヨオリ ウイシナシン シヨオリチ カンムゲ ウイムゲ
ウゴンアガオラバ イイウゴンアギシマタボリチ ゲンユウ クナツユウヤ
シイ水 アマミジヤ 5日マリ 10日マリ 夜ヤシネン ピイスヤシネン
スイスイニタボララオリチ ケーリンウクリン メーリユウヤ 島ヌメン
フウヌメン マンゾクヌ ユウバタバララオリ メーリウクリン
カーリンウクリン シマタボリ プタシン マダシン タボララオリチイ 神ヌ前
上ヌ前 ウゴンアガオラバ イイウゴンアギシマタボリ アガオリヌ アマリヤ
島ニンズウ、村ニンジュウ アガマ シュラマ ケーラ バタインチ パラインチ
シマタボリ

トウチイ

※ コウムチはプウリンと同じ、線香も3イ9ナムト ペアも九十九ペア

※ アミジワの時に、富嘉村・本村から 神シンが名石村の御嶽を訪ねる時に、
大石の御嶽の司とパナヌファのあいさつ

シサレ

クツンヌ スクブル イシキン殿地ヌ アタリオルタラ スクルユウ
ウチクルユウヌ ウゴンアガオリチ ブシパカ トウパカ バカヌカチ
マシイヌカチ パカクチェシン シヨオリ マシクチェシン シヨオリ
イビグサ サチグサ シヨオタラ シタ (下) ニンウラオリ ケーニンウラオリ
アミガフ ユガフヤ 五日マリ 10日マリ ユルヤシネン ピシュヤシネン
スイスイニタボララオリ ムトズサン ニイズサン タボララオリ
ウリジン ユガフナリ オルタラ ブウムトヌ ナガガラ
ナガムトヌ ナガガラ イバヤダギ ユシキヤダギ モトウヤン
サカヤン タボララオリ
イルウケシャー パアケシャー フキケシヤンタボララ オリ
ノーリユウン メーリユン タボララオリ
フダシン マダシン タボララオリ シジヤ スクルユウヤ
トリイウクリ カリーウクリン シヨオリド ウバナヌ ウパチヌ ウゴンユウ
アガオリ 今日ヌ 神ピイル 上ピイルヌ アタリオルタラ 富嘉ヌ ムトガラ

九ナヌ フナトリオリ 七ヌフナントリオリ 五シヌフナン トリオリ
神タチンシヨオリ、上タチン シヨオリチ
ブイシ ナイシ パナスクバラ ムトウヌザア ニヌザァ オリチ
シル水 アマ水 五日マリ 10日マリヌ ウゴン アガオラバ
ゲンヌユウ クナツユウヤ アマリユウン タマリユウン タボララオリチイ
トシドシ ニ アリオル シルミズ 雨ミズヌ ウゴンヤ モトヌザァ ニヌザァ
ナオリチ ウゴン アガオルテーヌ 神グシン 上グシンヤ トリウガオリタボリ
ナミナミ シサレー

※ 「パナヌファヌ シュビヌコウムチ」について

御嶽の北の井戸から水を汲んで、シビヌ コウムチを行う。最初は桃盛のピナカンと
ヨウジノ前から始める。

- ① ピナカン・・・ 花米 小皿2つ、神酒ピトシキ、酒ピトシキ、クパン小皿3枚
ヨウジの前・・・ ヨウジの前もピナカンと同じコウムチ
線香・・・ 九ナモト、ヨウジンの前も同じ
- ② 桃盛のブザシケで行う。
九ナモトのコウムト、九合花米、神酒ピトシキ 九ナムリのクパン
クパン・・・ アラグミ (サチバナ)、サバンミズ、シイシイはミイシ
酒はピトシキ
- ③ 1番座の西のヤドチで行う
線香は九ナモト、九合花米
神酒はピトシキ、
九ナモトのクパン・・・ アラグミ (サチバナ)、サバンミズ、
シイシイはミイシキ、酒はピトシキ、水皿二枚
ヤドチの所から庭、門の所
水を皿二枚ずつ使う。コウムチはヤドチの所と同じコウムチ
- ④ 庭も同じ
- ⑤ 門の所も同じ
- ⑥ 御嶽のマソミ
九ナモトのコウムト、九合花米、 九ナムリのクパン
クパン・・・ アラグミ (サチバナ)、サバンミズ、シイシイはミイシ
酒はイチキン 神酒もイチキン
- ⑦ 御嶽のブザシケ、ヤドチ ミナ (庭)、門の所 コウムチも全部同じである。

⑧ 御嶽では八クマタのコウムチ

マソミの北側で北に向かって、九ナムトのコウムト、水は皿の2枚に入れて
花米、神酒、酒、クパン、アラグミ、サチバナ、サバン水、シシイのミイシ(3)
で拌む

その後、貝盛家の畑の北側の、大きくて 平たい石に押す。

最期に井戸の所で水のパチリを行う。

パナヌファヌ シュビヌ シサレグチ

最初にパンを全部奉納した後に次ぎのパンを歌う。

今日ヌ 神ピイル 上ピイルヌ アタリオルタラ

パチメヌ ムトヌキニ ニヌキニ ウヤナリオルソウ

ナアシキヤ ナビャヌ ナアシキ ヤリオリ

マリヤ マンジヤリオリ イシパナ スリパナ アリオル神ヤ

ブイシ ナイシ パナスクバラ パナヌファ シヨオリ

神ムゲー 上ムゲンウゴン アガオタクト

ヤシカ 人間や ジイムチ カネムン ヤリオリ

ヤアニンジュウ ナリオルソウ

今日ヌ 神ヌピイルバ トリオリ フクラハヌ シビヌ ウゴンアガオルンタラ

コウビヌ 神ヌコウムチ 九ナヌコウムチ 上ムト 九合花 九ナムリヌクパン

アラグミ サチバナ サバン水 シイシイミシイ 酒イチン ミシイ イチン

コウビヌ カンヌコウムチ 上ヌコウムチ カンシナシン シヨオリ 上シナシン

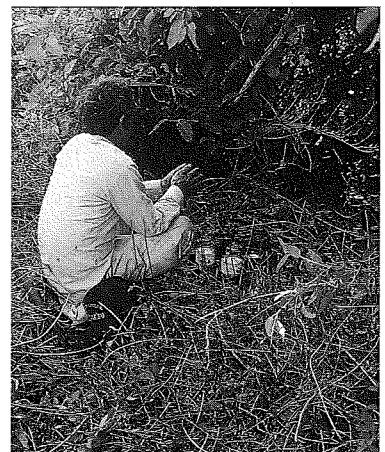
シヨオリチ フクラハヌ シュビヌ ウゴンアガオラバ コウビヌ 神ヌコウムト

神 バガリン シマタボリ 上バガリン シマタボリ

神ユラシン シマタボリ

上ユラシン シマタボリ

この日、島のミシュクゲでは、阿底御嶽の司たちの
先導で今年の感謝と来年の雨願いと五穀豊穡の祈願が
行われる。参加者は阿底御嶽のパナヌファと各御嶽や
マニジューの代表と保田盛家の方々である。今年の豊
作の感謝と来年の雨願いと五穀豊穡を願うパンの後、
保多盛の司から参加者にお礼のシサリグチ（口上）あ
り、それに対して、パナヌファの代表が参加者を代表
して司へお礼のシサリグチ（口上）、一方、保多盛家の



ユナムリでの祈願

代表からも参加者に対して、お礼のシサリグチが行われる。

その後、保多盛家とそのパナヌファの一行は保多盛家の元祖であるアラマリヌパーの墓掃除とそのことを告げるシサリグチ（口上）を行う。その後浜に出て身を淨めた後、ミシユク道沿いにあるヨナムリと呼ばれる場所で最後のシサリグチ（口上）を行う。その後保多盛家に戻り参加者に対してお礼の座が開かれる。

（最近は行われていない）

第二日目はハユニゲー（世願い）で、各御嶽では来年の豊作祈願を行う。前日と同様、各御嶽でも来夏世界報の願いと巻踊りが行われる。巻踊りには、老若男女で円陣を作り、手を上下に動かしながら、銅鑼やアミジュワの巻踊りのジラバに合わせて、左巻に回る。その時、司はワラ（現在はサトウキビの葉）を持って、参加した人々につぎつぎと鉢巻きのように巻き付ける。

巻踊りのジラバ（アミジュワ）・・・・・阿底御嶽の場合

：と（）の後は掛け合い

- | | | | | | |
|-------|----------|------|---------|--------|--------|
| 1：ヒヤサ | キューヌピイバー | ：ハーリ | クガニーピイバ | ムトゥーバシ | ：ヨーホナイ |
| 2：ヒヤサ | ヤニンユドゥ | ：ハーリ | クナチユドゥ | ニガヨル | ：ヨーホナイ |
| 3：ヒヤサ | シラミジイドゥ | ：ハーリ | アマミジイドゥ | ニガヨル | ：ヨーホナイ |
| 4：ヒヤサ | イシイカマリ | ：ハーリ | トゥカピサミ | ニガヨル | ：ヨーホナイ |
| 5：ヒヤサ | ナウリユドゥ | ：ハーリ | ミギリユドゥ | ニガヨル | ：ヨーホナイ |
| 6：ヒヤサ | ナウリユヌ | ：ハーリ | ミギリユヌ | ミブギニ | ：ヨーホナイ |
| 7：ヒヤサ | ウヌニガイ | ：ハーリ | ウフカフドゥ | ニガヨル | ：ヨーホナイ |

中歌（アガリヨウカタジラバ）

- | | | | |
|---|---------|----------|---------------|
| 1 | あがりょうから | ふにぬくんちう | （ハーユイヤーサ） |
| ◎ | ベヤガーヘーヌ | ドンキャハナイ | サハメヨハメヨ ユウナウレ |
| 2 | うはらから | みじいぬくんちう | （はーユイヤーサ） |
| | ベヤガーヘーヌ | ドンキャハナイ | サハメヨハメヨ ユウナウレ |
| 3 | なゆぬふにどう | やりおる | （ハーユイヤーサ） |
| | ベヤガーヘーヌ | ドンキャハナイ | サハメヨハメヨ ユウナウレ |
| 4 | なゆぬふにん | あらぬすよ | （ハーユイヤーサ） |
| | ベヤガーヘーヌ | ドンキャハナイ | サハメヨハメヨ ユウナウレ |
| 5 | あわだらどう | ましゃわるよ | （ハーユイヤーサ） |
| | ベヤガーヘーヌ | ドンキャハナイ | サハメヨハメヨ ユウナウレ |
| 6 | くみだらどう | ましゃわるよ | （ハーユイヤーサ） |

ベヤガーヘーヌ ドンキャハナイ サハメヨハメヨ ユウナウレ

7 ふかむら ましゃわるよ (ハーユイヤーサ)

◎ ベヤガーヘーヌ ドンキャハナイ サハメヨハメヨ ユウナウレ

8 うやぎむら ましゃわるよ (ハーユイヤーサ)

◎ ベヤガーヘーヌ ドンキャハナイ サハメヨハメヨ ユウナウレ

9 うやぎむら とうゆまーれ (ハーユイヤーサ)

◎ ベヤガーヘーヌ ドンキャハナイ サハメヨハメヨ ユウナウレ

後歌 (ウブヌシタヌギシャマジラバ)

1 うぶぬしいた ぎいしゃまーや ヨーホー
とうむるざーしい ふあぬぶねよ

2 なゆぬーゆどう とうばらしちゃ ヨーホー
いひきやぬゆーどう とうばらしちゃよ

3 なゆぬーゆーや あらぬすよ ヨーホー
いひきやぬゆーや あらぬすよ

4 むんなまぬ ゆやいどう ヨーホー
かきいなまぬ ゆやいどうよ

5 むんぶらば ぎしゃまやよ ヨーホー
あはまむから ぶりやわりよ

6 かきとうらば ぎしゃまやよ ヨーホー
あはまむから ぶりやわりよ

巻踊りのジラバ (プーリン) 阿底御嶽の提供資料

: と () の後は掛け合い

1 : ヒヤサ キューヌピーパー : ハーリ クガニーピーバ ムトゥーバシ : ヨーホナイ

2 : ヒヤサ カンクパナ : ハーリ ウバチイドウ タボラリイ : ヨーホナイ

3 : ヒヤサ ナウリイユバド : ハーリ ミギイリイユバ タボラリイ : ヨーホナイ

4 : ヒヤサ ナウリイユヌ : ハーリ ミギリイユヌ ミブギイニ : ヨーホナイ

5 : ヒヤサ ニギタムチイ : ハーリ シイジイタムチウ タボラリイ : ヨーホナイ

6 : ヒヤサ フカヌムラ : ハーリ ムトゥムラ タボラリイ : ヨーホナイ

7 : ヒヤサ ウヌカフドウ : ハーリ ウフカフドウ ニガヨル : ヨーホナイ

(45) アサヨイ ユーニゲー 癸壬 (みずのと み)

アミジイワぬアサヨイのパン=神歌 (大石御嶽)

トウチイ トウトウ

今日ヌ 神ピイル 上ピイル ゲンヌユウ クナツユウ
 シイミズ アマミズヌ アサヨイヌ ウゴンヌ アタリオリチ 神ヌコウムチ
 上ヌコウムチ 神グシン 上グシン 9合花ヌ 神パナ 上パナ 神ミシャグ
 上ミシャグ カンクパン ウイクパン コウビヌ 神ヌコウムチ
 ウイヌコームチ 神シナシン シヨオリチ ウゴンアガオラバ
 イイウゴン アギシマタボリ トウチイ

コ		クバン小皿	3枚
ウ	ペ	神酒	ピトシキ
ム	ア	九合花米	
ト			
フ	三	立ちグシン	タチウセ
タ	十	立ちグシン	タチウセ
ピ	三	立ちグシン	タチウセ
サ	ペ		
	ア		

(46) グンガツ(五月)トマニゲー 土ゐ(つちのと ゐ)

前述(26)の「2月トゥマニゲー」を参照してください。

トゥマニゲーは、泊願い、いわゆる海神祭(天候願い)である。夏場の漁期を迎え、特に海上平安の祈りには島民の強い期待感がある。

まず、各ムラのムラブサーは、その日に備えて神酒を造り、当日には船着場海岸近くの拝所で行われる。各ムラの拝所はそれぞれ決まっており、北ムラはマドマル、南ムラはペドマル、前ムラと名石ムラはイナマ、富嘉ムラはプルマヤマとなっている。また担当の神司もそれぞれ決まっている。

五月トマニゲーのパン=神歌(大石御嶽)

トウチイ トウトウ

今日ぬ 神ピイル 上ピイル 五月トナタカビ インブン カチブシヌ
 ウゴンヌ アタリオルタラ ムトヌファ パナヌファ ナリオルソウ
 神ヌトコロ ナミナミオルウヤン 神シケン シヨオリ ウイシケン シヨオリ
 ウイシケン シヨオリチ ペムチ マーペムチ シンド オール ウヤンヌ前
 ヤーアカチ キニカチヌ 神ミシャグ 上ミシャグ 神シナシン シヨオリ
 ウイシナシン シヨオリチ インブシ カチブシヌ フクラハヌ シュビヌ
 ウゴンアガオラバ イイウゴン アギシマタボリ

トウチイ

※ 名石の神酒はイナマに、桃盛の神酒はペムチの浜に出す。名石のパナヌファ、前のパナヌファはペムチパマ、シンドにおるウヤンの前で、家々の神酒で拝む。線香はない。

3 おわりに

本報告は、平成8年の8月から平成10年の1月までの計6回にわたる調査を元に行いました。波照間島は現在土地改良事業が進み、島の地形特に道路の変貌が調査を困難にしました。島の道路地図を作成することから始め、地名特にウダチ（陸地から海岸へ抜け出る場所）や水マチ（拝所）・井戸は重点的に行いました。調査から得られる神行事の考察については別の機会で報告できれば幸いです。本調査では本比田トヨ、石野ノブ、後富底フジ、船附トヨ、田盛苗・勝造氏の皆さんと波照間中学校の職員の皆さんからの聞き取りと資料の提供がありました。紙面をかりて感謝申し上げます。

資 料 波照間島の道路地図

竹富町 波照間島

